

# 資料編 1

須賀川市地域福祉計画アンケート調査

— 調査結果報告書 —

平成 30 年 6 月

須賀川市 社会福祉課

## <目次>

I	調査概要.....	1
II	調査結果.....	2
1	回答者のプロフィール.....	2
	(1) 年齢.....	2
	(2) 性別.....	2
	(3) 世帯状況.....	3
	(4) 家族人数.....	4
	(5) 住居.....	4
	(6) 居住地区.....	5
	(7) 職業.....	6
	(8) 世帯人員.....	7
2	地域での日常生活について.....	8
	(1) 須賀川市の住みやすさ.....	8
	(2) 暮らしや環境についての満足度.....	9
	(3) 暮らしや環境についての満足度（不満と感ずる内容）.....	10
	(4) ご近所付き合いの程度.....	20
	(5) ご近所との付き合いを広げたいと思うか.....	20
	(6) ご近所との関わりを深めたいと思うか.....	21
	(7) ご近所で手助けが必要な場合の行動.....	21
	(8) ご近所付き合いで大切なもの.....	22
	(9) 近所で虐待の可能性のある場合の行動.....	23
	(10) 居住地域の問題・課題.....	24
	(11) 困ったことがある場合の相談相手・助けてもらう相手.....	26
	(12) 地区の催しや行事への参加.....	27
	(13) 参加している地区の催しや行事.....	28
	(14) 地区の催しや行事に参加しない理由.....	29
	(15) どのような地域にしていきたいか.....	30
3	地域活動（ボランティア活動等）への参加について.....	31
	(1) 地域活動への参加.....	31
	(2) 地域活動の内容.....	32
	(3) 地域活動で困ったことや苦勞したこと.....	33
	(4) 今後の地域活動参加意向.....	34
	(5) 参加したい地域活動.....	35
	(6) 地域活動に参加できない、したくない理由.....	36
4	福祉サービス全般について.....	38
	(1) 福祉サービスに関する情報の入手度合い.....	38

(2) 福祉サービスに関する情報の入手先.....	39
(3) 居住地区の担当民生委員・児童委員を知っているか.....	40
(4) 須賀川市社会福祉協議会を知っているか.....	40
(5) 須賀川市社会福祉協議会が実施している福祉サービスを知っているか.....	41
(6) 地域で生活するうえで不足していると思う福祉サービス.....	42
(7) 地域福祉を進めるために取組むべき施策.....	43
(8) 専門の相談窓口を知っているか.....	44
(9) 相談窓口の充実化に関する希望.....	45
5 「ひきこもり」について.....	46
(1) 「ひきこもり」の有無・人数.....	46
(2) 「ひきこもり」の年齢.....	47
(3) 「ひきこもり」の性別.....	47
(4) 「ひきこもり」の続柄.....	48
(5) 「ひきこもり」の経過年数.....	48
(6) 「ひきこもり」の原因.....	49
(7) 「ひきこもり」から脱却するために必要な福祉サービス.....	50
6 貧困について.....	51
(1) 生活困窮世帯への該当.....	51
(2) 生活困窮に至った原因.....	52
(3) 生活困窮状態から脱却するために必要な福祉サービス.....	53
7 災害時の対応について.....	54
(1) 自主防災組織の必要性について.....	54
(2) 防災訓練実施時の参加意向.....	54
(3) 緊急時、避難所への誘導などの必要性.....	55
(4) 緊急時、手助けを頼める方の有無.....	55
(5) 緊急時、周囲への手助けの可否.....	56
8 その他.....	57
<b>Ⅲ 資料編.....</b>	<b>67</b>
調査票.....	67

# I 調査概要

## 1 調査の目的

須賀川市第3次地域福祉計画の策定にあたり、市民を対象とするアンケート調査を行い、地域福祉推進に関する意識等を把握することを目的とし、調査を実施した。

## 2 調査期間

平成30年5月2日（水）～平成30年5月16日（水）

※集計処理にあたっては、6月1日（金）着分の調査票まで含めた

## 3 調査対象

18歳以上の市民 2,000人

## 4 調査方法

郵送による配布・回収

## 5 回収状況

配布数①	総回収数	有効回収数②	有効回収率 ②／①
2,000	663	662	33.1%

## 6 調査結果の見方

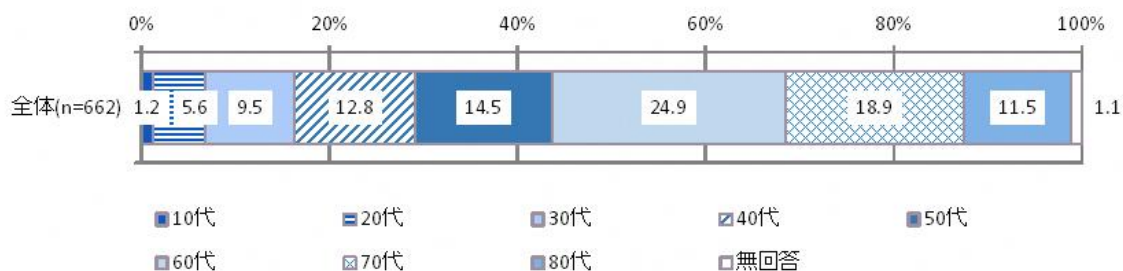
- (1) 調査数（n=number of cases）は比率算出の基数であり、100.0%が何人の回答に相当するかを示す。
- (2) 回答の構成比は百分率であらわし、小数点第2位を四捨五入して算出している。したがって、単一回答形式の質問においては、回答比率を合計しても100.0%にならない場合がある。また、回答者が2つ以上の回答をすることができる複数回答形式の質問においては、各設問の調査数を基数として算出するため、全ての選択肢の比率を合計すると100.0%を超える。
- (3) 図表及び本文で、選択肢の語句等を一部簡略化している場合がある。

## Ⅱ 調査結果

### 1 回答者のプロフィール

#### (1) 年齢

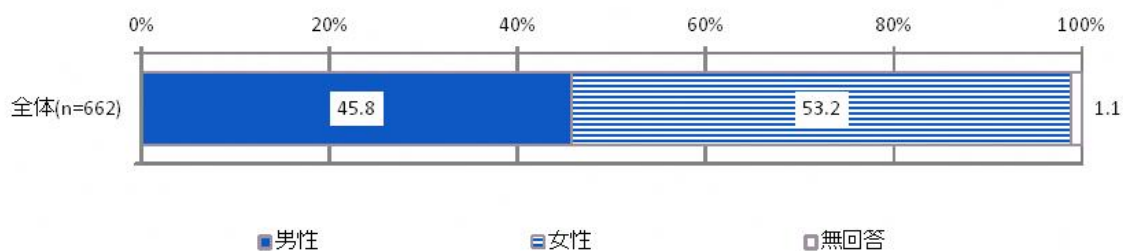
問1 平成30年5月1日現在のあなたの年齢をお答えください。(1つだけに○)



年齢については、「60代」が24.9%と最も多く、次いで、「70代」(18.9%)、「50代」(14.5%)、「40代」(12.8%)となっている。

#### (2) 性別

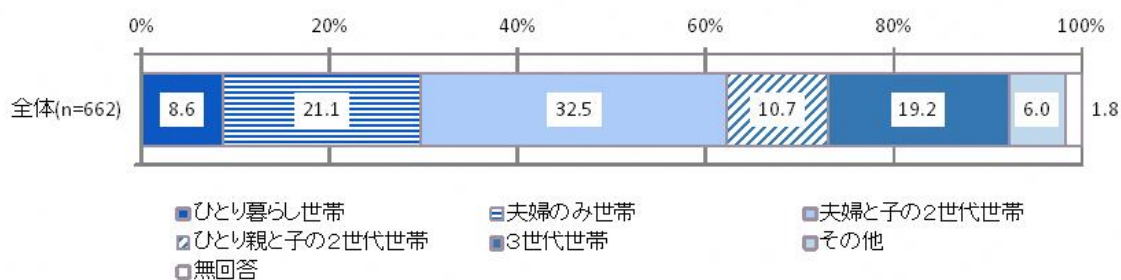
問2 あなたの性別をお答えください。(1つだけに○)



性別については、「男性」が45.8%、「女性」が53.2%となっている。

(3) 世帯状況

問3 あなたの現在の世帯状況をお答えください。(1つだけに○)



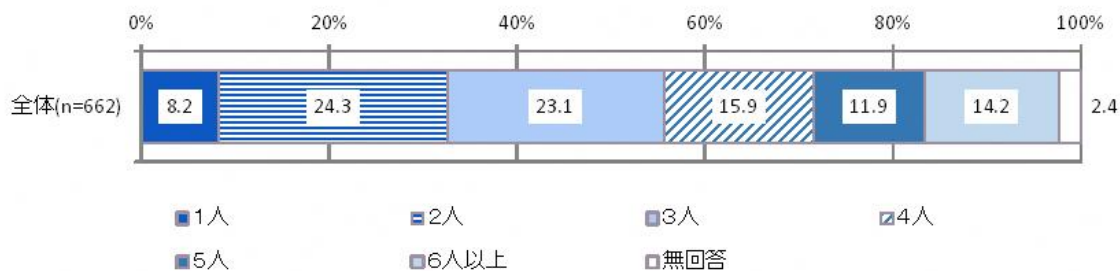
世帯状況については、「夫婦と子の2世代世帯」が32.5%と最も多く、次いで、「夫婦のみ世帯」(21.1%)、「3世代世帯」(19.2%)、「ひとり親と子の2世代世帯」(10.7%)となっている。

問3 その他記述一覧

内容	件数
4世代	9
兄弟・姉妹と同居	3
2世代世帯 (詳細記載なし)	4
5人以上の世帯	2
孫と同居	2
老人ホーム	1
夫婦と子とひとり親	1
内縁の妻	1
ひとり親・姪	1

(4) 家族人数

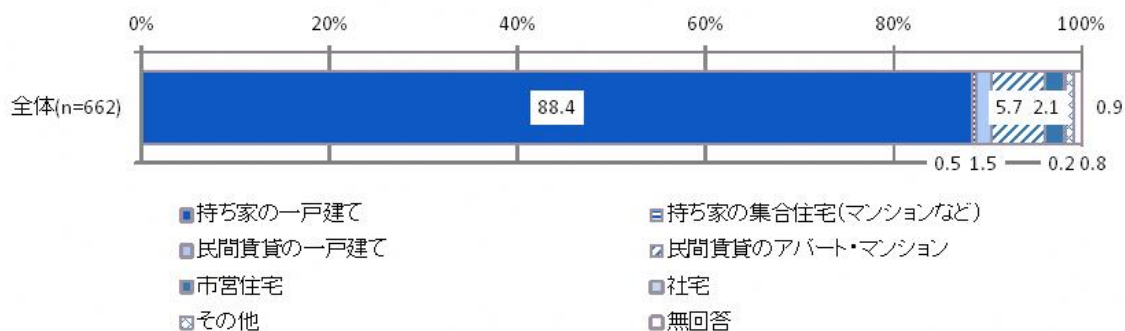
問4 同居しているご家族はあなたも含めて何名かお答えください。(1つだけに○)



家族人数については、「2人」が24.3%と最も多く、次いで、「3人」(23.1%)、「4人」(15.9%)、「6人以上」(14.2%)となっている。

(5) 住居

問5 あなたの現在のお住いについてお答えください。(1つだけに○)



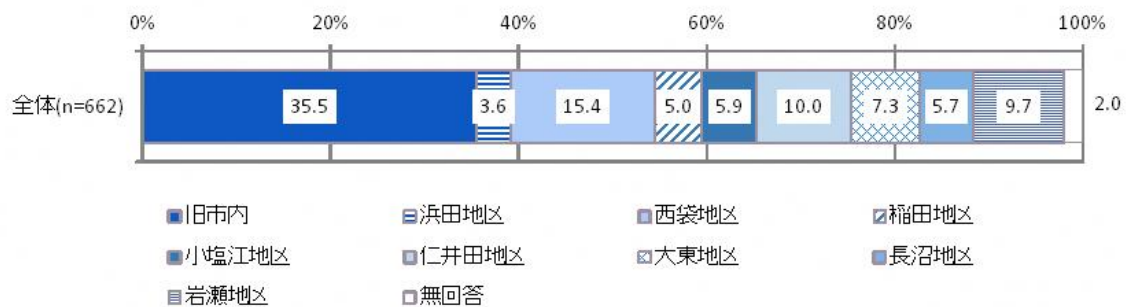
住居については、「持ち家の一戸建て」が88.4%と最も多く、次いで、「民間賃貸のアパート・マンション」(5.7%)、「市営住宅」(2.1%)、「民間賃貸の一戸建て」(1.5%)となっている。

問5 その他記述一覧

内容	件数
県営住宅	2
公営住宅	1
一戸建2世代住宅	1

(6) 居住地区

問6 現在、お住まいの地区をお答えください。(1つだけに○)

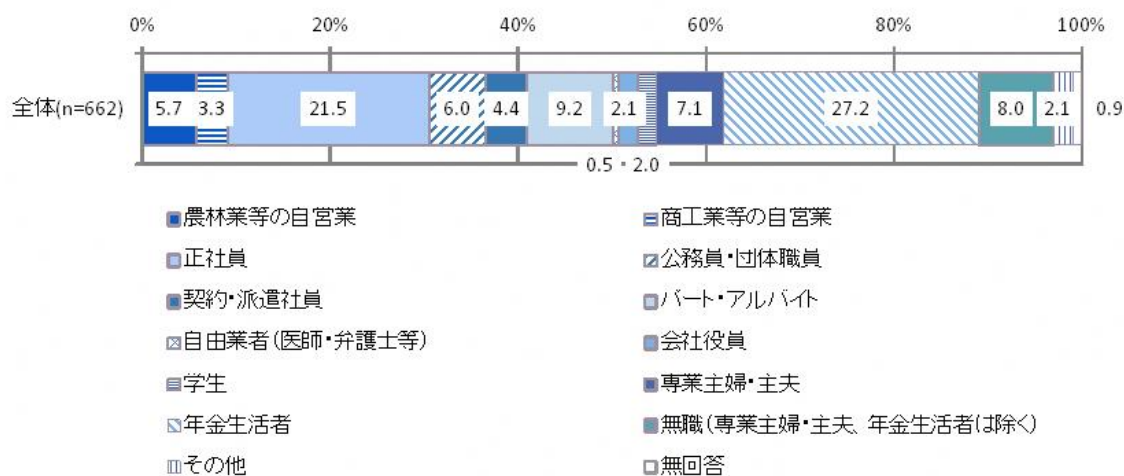


居住地区については、「旧市内」が35.5%と最も多く、次いで、「西袋地区」(15.4%)、「仁井田地区」(10.0%)、「岩瀬地区」(9.7%)となっている。



(7) 職業

問7 あなたの職業についてお答えください。(1つだけに○)



職業については、「年金生活者」が27.2%と最も多く、次いで、「正社員」(21.5%)、「パート・アルバイト」(9.2%)、「無職(専業主婦・主夫、年金生活者は除く)」(8.0%)となっている。

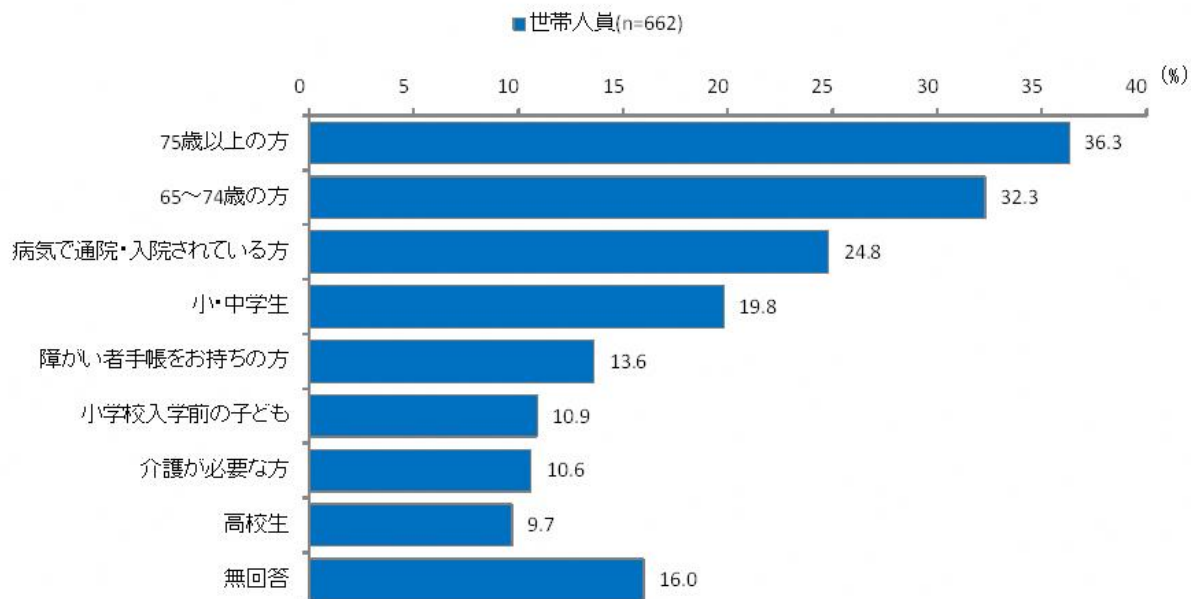
問7 その他記述一覧

内容	件数
会社職員	2
生活保護	1
運送業	1
建設業	1
お手伝い	1
自営	1
家庭教師	1
SOHO (スモールオフィス)	1

## (8) 世帯人員

問8 あなた自身も含め、ご家族に次の方はいらっしゃるかどうか教えてください。

(あてはまる番号すべてに○)

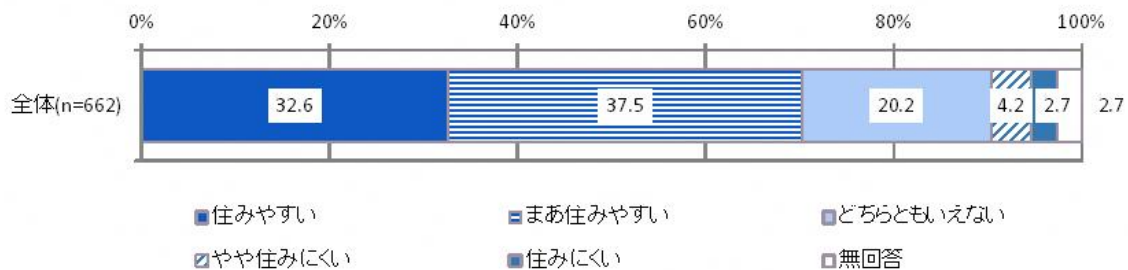


世帯人員については、「75歳以上の方」が36.3%と最も多く、次いで、「65～74歳の方」(32.3%)、「病気で通院・入院されている方」(24.8%)、「小・中学生」(19.8%)となっている。

## 2 地域での日常生活について

### (1) 須賀川市の住みやすさ

問9 あなたは、須賀川市を住みやすいと感じますか。(1つだけに○)



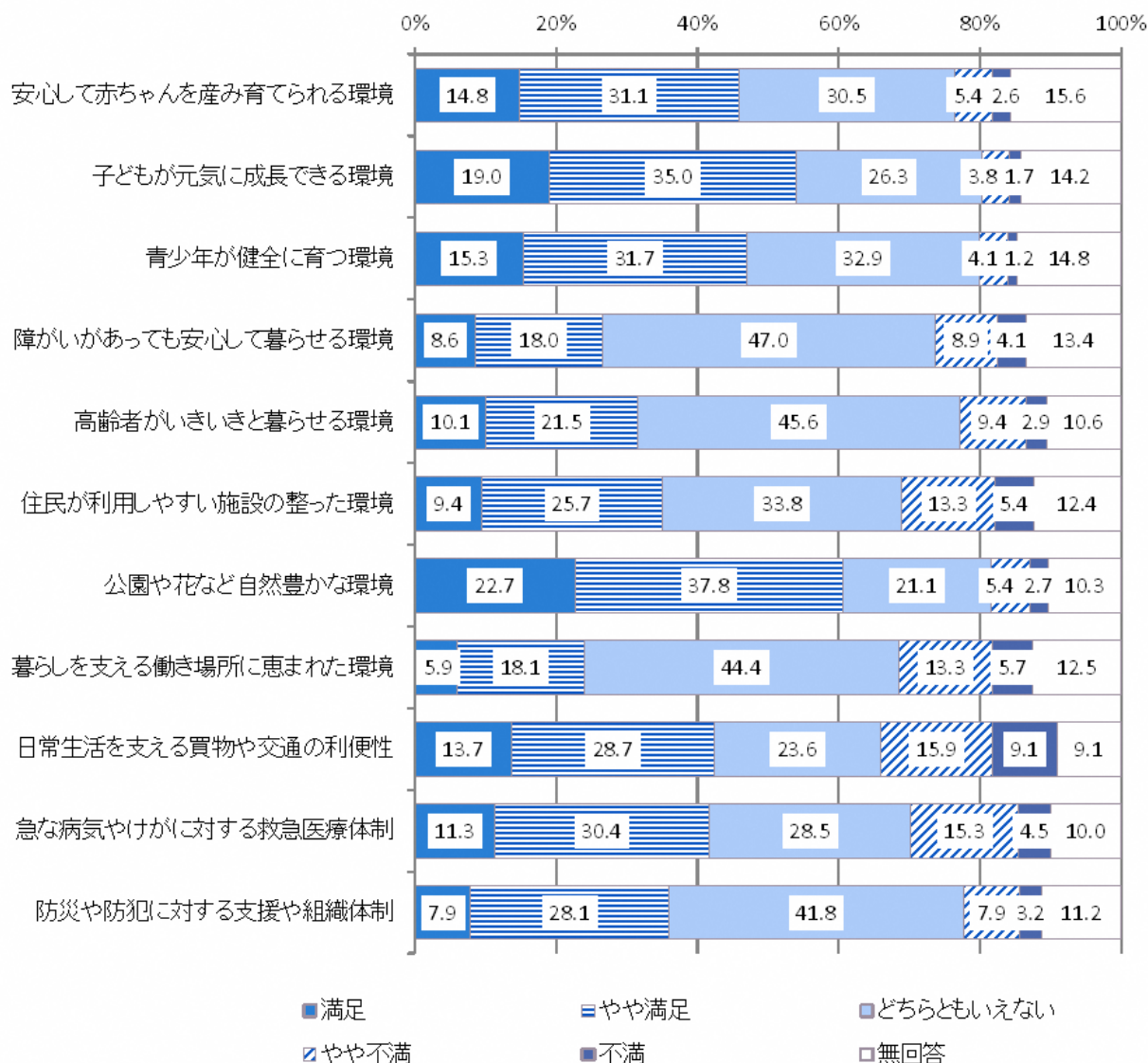
須賀川市の住みやすさについては、「まあ住みやすい」が37.5%と最も多く、次いで、「住みやすい」(32.6%)、「どちらともいえない」(20.2%)、「やや住みにくい」(4.2%)となっている。

「住みやすい」と「まあ住みやすい」を合わせた「住みやすい」を見ると、70.1%となっており、「住みにくい」と「やや住みにくい」を合わせた「住みにくい」は6.9%となっている。

(2) 暮らしや環境についての満足度

問 10 あなたの周りの暮らしや環境についての満足度はいかがですか。

(それぞれあてはまる番号に○)



暮らしや環境の満足度について、【満足】と【やや満足】を合わせた“満足”を見ると、「公園や花など自然豊かな環境」が 60.5%と最も多く、次いで「子どもが元気に成長できる環境」(54.0%)、「青少年が健全に育つ環境」(47.0%)となっている。

一方、【不満】と【やや不満】を合わせた“不満”を見ると、「日常生活を支える買物や交通の利便性」が 25.0%と最も多くなっている。

## (3) 暮らしや環境についての満足度（不満と感ずる内容）

【問 10 で「やや不満」、「不満」と答えた方に伺います】

問 11 不満と感ずる内容について具体的にお答えください。

## 問 11 記述一覧

内容	性別	年齢
バス、電車が少ない。車がないと暮らしていけない。道路の起伏が、かなり激しく、自転車での移動が困難→高齢者、障がいのある方は暮らす環境としては暮らしづらい。皮膚科、小児科が少ないように思われます。治安維持を目的とした、夜間のパトロール等を増やしていただくとより安心です。	男性	40代
須賀川だけで無く、福島県内での収入が少ないため、県外へ仕事に出るしか無い。車が無ければ生活が成り立たない。	男性	50代
若い人達が働きに行っているため、何かあった時に行動が出来ない事が多い。	男性	80代～
市街地の活性化が無い。	男性	50代
市民温泉等施設の老朽化。介護確認する人によって等級が上下する。	男性	40代
買物や病院に通えないから。	男性	60代
防災無線の音がマイクを通すと反復して何を伝えているのかがわからず聞き取りにくい時もあります。パートや契約社員の働き方として、休みたい時に休みづらい（スーパーの店員）、給料が安すぎて安心して働けない。	女性	20代
交通の便が悪い。バスの本数が少ない。運賃が高い。	女性	40代
環境整備の利便性が悪い。	男性	50代
高齢者には、なるべく関わりたいくない感覚がある（なるべく、こちらは声をかける様にしている）。交通機関の時刻等で利用したくても合わない事が多く、高齢ながら車を運転してしまう。	女性	80代～
市の中心に遠いため、免許がない場合に生活できない。	男性	60代
今は車の運転をする事が出来るが、もっと高齢になった時の交通の便が心配。色々な施設をまだあまり利用していないので、何があるのか良くわからない。	女性	60代
役所だけ立派で、民間が廃れている。	男性	70代
消防の教育が衰えている。	男性	80代～
先日義母が初めて腹痛で救急車を依頼したが郡山市の医療機関へ運ばれた。	男性	60代
小児科や病院がいまいち充実していない。時給が低く、子育て主婦が働きづらい。保育所も申込から入所までが長い。希望の園に入れない。保育内容に魅力を感じない（郡山に行けばある）。	女性	20代
産婦人科が少ない。	男性	70代
若者の就業場所が他市町村より少ない。	男性	60代

## Ⅱ 調査結果

内容	性別	年齢
施設は一部の者だけが使用出来る設備しかなく、又、働き場所はいつ倒産、閉店するか分からないのが多く、恵まれているとは思わない。買物は郊外にあり、市内の商店は日曜休で買い物が出来ない。防災無線の音声が高く、家にいると何を伝えているかわからない。	男性	70代
玉川村や天栄村に比べると子供に対する助成が少ない。子供手当、出産祝金等。	男性	30代
放射能の影響が子どもに出るか心配。車以外の交通手段があまりない。	男性	50代
運転の出来ない高齢者にとって、須賀川市の北部に当るこの町は、陸の孤島だと思います。街中は、いろいろと交通の利便性も良く、一回百円で乗れるバスが走っていますが、こちらは100円で乗れるバスなど通っていません。一日一回でも、いいからそういう恩恵にあずかり、利用して出掛ける気分を味わいたいです。仁井田地区、季の郷、向陽町など、年々高齢者が増加しています。家にいて介護保険を使う様になる環境よりも、外に出る事が出来やすいようにする事が、大切だと感じています。	女性	70代
勤務する職種が少なく、会社が他の地区より少なく感じる。高齢や緊急時の病院側受け入れ体制に不安がある。	女性	60代
周りにひとり暮らしの方が数人いるが、体調が悪い時に大変なようです。	女性	70代
児童クラブが入れないところがある。定員がいっぱいと言われ、放課後教室を勧められるが、17時以降に働く親は大変である。児童の少ない学校は6年生まで入れて、多いところは3年生までしか入れない。家に居させる親は心配で仕方がない。	男性	30代
産婦人科が少ない。子供を産んだあとの小児科も少ない。何かと、病院に通う事もあると思うので、不便と感じる。スーパーやホームセンターは多いが、昔あったグリーンモールのような大型店があればいいと思う。利用者が少ないのでバスもなくなってくるのは、しょうがないと思う。	女性	40代
車を手放したとき、病院や買物にいけるか不安である。	男性	60代
車がある人は良いと思うが、自分の住んでいる所から買い物などに行く際、バスも通っていないし、水郡線なので須賀川駅まで行かないので不便。学校に行くにも須賀川の高校だと必ず送迎しなくてははいけない。	女性	40代
自分が今より高齢になった場合に病院の通院や買物が出来るか不安なので、町内に人々が集まれる場所が欲しい。	女性	60代
働ける場所が少ない。	男性	10代
街の中心部があまりにも寂しすぎる。特に日常品の買物まで郊外に移っている。	男性	80代～
岩瀬地区の中でも中心から離れた場所のため交通の便も悪く、施設からも離れているため公共施設なども利用しにくい。	女性	50代
中心地から離れると極端に不便。	男性	50代
車を持っていなければ買い物に行くのが困難。職を探しているが求人が少ないと感じる。	女性	30代

Ⅱ 調査結果

内容	性別	年齢
防災、防犯に対する横の繋がりが足りない。	男性	60代
産婦人科が少ないと思う。大東地区にお店がなく、車がないと何も買えない。高齢者になった時の不安がある。バス停も遠い。	男性	30代
バスが走っていないためお年寄りが自転車やタクシーなどを使っているが、道が狭く、車の量も多く大変危険。中高生なども車にひかれそうで危ない。夜具合が悪くなっても郡山に行くようにいつも言われる。	男性	40代
東部地区は全てにおいて遅れている。環境整備がされていない。東部地区を改革しなければ、若者は居なくなる。住みづらい、不満が多く記入しきれない。	女性	20代
市外では施設も病院もない。買物も車が無いと何も出来ない。	男性	60代
防災はよくわからないが、防犯は少し不満。飲み屋が多く、夜でもうるさい時がある。	女性	30代
歩いて買い物ができる店がなく、車で行くことになる。現在は良いが、バスもないことから将来が不安である。	女性	50代
子供が怪我をした時、郡山に行かないと対応してくれる先生がいないと言われた。雇用が須賀川にはあまりなく、ベットタウン化している。	男性	30代
市の中心通りが「t e e t e」が出来ても日常の買物をする商店が少ない。駐車スペースも少ない。	女性	60代
町の中心部にショッピングセンターが欲しい。	男性	80代～
障がい者雇用（事業所や一般企業）の場が少ない。	男性	50代
病院も日・祝だと高額であり、これからできるテッテも駐車場代が高い。	女性	40代
バスの便が悪い。	女性	80代～
過疎部に行くほど、公共施設がない。	女性	30代
市内に買物する場所がない、特に食糧品類。	女性	80代～
出産出来る病院の減少。地元出身ではない場合孤立しやすい。	女性	50代
若者が安心して働ける職場環境に乏しい。高齢者の生きがい環境アドバイスが欲しい。大型店が多く、高齢者向けの個人経営店が必要。	男性	60代
急病の時に受け入れてくれる所がないような気がする。	女性	60代
利用しやすい施設が少ない。防災や防犯に対する地域の取り組みが必要。	男性	70代
現在の長沼は須賀川市となったのですが環境はあまり良いとは言えません。高齢者が安心して生活できるような環境がもっとあって良い。具体的にはお年寄りが集まれるような施設がもっとあって良い。行きやすい場所をもっと増やしてほしいと思います。	女性	50代
公共料金等の不満、税金等の不満。	女性	50代
障がい者に対して、道路など段差があり不便。	男性	50代
若者が遊べる施設が少ない。大きな病院に産科が少ない。	女性	10代
役所目線及び旧市内中心の体制が強い。	男性	60代



Ⅱ 調査結果

内容	性別	年齢
今は車で買物等行けませんが、歩いて行ける所にお店がなく不安があります。小さな孫に未だに放射能の不安があり、あまりこちらには来たがりません。中学生のいじめの問題等、子供たちが安心できるようになればと願います。	女性	60代
利用する施設まで遠い。	男性	50代
車が無いと生活できない。市民温泉をもっと活用した方が良い。シルバー人材任せでなく、綺麗にしてもっと人が来るようにすべき。	男性	50代
産婦人科医院の不足。高齢者の利用出来る施設が少ない。	男性	70代
利用しやすい施設、働き場所、買物・交通の利便性のいずれも乏しい。	男性	50代
高齢者に対する交通が不便。	男性	40代
正社員として安心して働ける事業所が少なく、中高年の雇用も限定的。	男性	50代
家族で利用しやすい施設（公園やキッズパークなど）を充実させて欲しい。ヨークベニマルなど、買い物に行くまで15分程度かかってしまう。車で5分で行ける距離に買い物する所があれば便利。夜間対応してくれるのが病院ではなく、市民センターしかないの、郡山の病院に行っているのが現状です。	女性	20代
図書館、室内の子供の遊び場。t e t t eに期待しています。スポーツ施設や、気軽にスポーツを楽しめる機会があるといいです。	男性	30代
交通機関（バス・電車）の本数や駐車場所が少ない。	男性	20代
原発事故による放射性物質の心配。	女性	50代
阿武隈小へ通学予定だが、人口の多いあおば町にも関わらず3km以上も小学校まで離れている。循環バスが通ってくれない。	男性	30代
自分の将来に対し対応できる施設が、満足できるかどうか不安。	無回答	無回答
子供が遊べる施設を増やしてほしい（ペップキッズのような大きな施設、大きくてきれいな公園）。	女性	20代
近くの商店街が減り大型スーパーへ行かないと食品が買えない。老々介護となると、車は必要。	男性	70代
長期休みの際、やっている病院がない。またはその情報が入ってこない。坂が多く、車がないと店に行けない。	男性	60代
バス交通が少ない。	男性	70代
若者が仕事を求められる場所が少ない。日常生活用品を購入する場合、車がないと行くことも出来ない、通院も同じである。高齢者がいきいきと生活したいが、身体に異常が出るとグループ、サークルなどへの参加も出席したい気分にならない。施設等改善されて、障がい者も出かけられるようにはなりつつあり、喜ばしいことです。しかし地区の集会所などは、まだ未改善の場所もあります。	女性	70代
駅の周りに店がない。	女性	60代
交通面に不便な所がある。	女性	40代
夜間に子供の具合が悪くなった時に診てもらえる病院が市内にないため、郡山まで行かなくてはならない。	女性	30代



内容	性別	年齢
介護状態になって、すぐ入所できる施設を充実してほしい。障がい者の勤労できる施設がもっとほしい。	女性	60代
近隣に個人商店が少なくなり、ちょっとした買い物に不便を感じる。街中に歩いて行けるコンビニがない（宮先町、中町、本町、馬町）。	男性	60代
保育料が高い、相談支援員が少なく、相談ができる環境が少ない。長沼、岩瀬地区は交通の便が悪く、通院や買い物が不便（高齢者）。救急を受け入れてくれる病院が少なく、郡山に搬送されてしまい、その後の通院が大変。	女性	30代
障がい者が通う学校が須賀川にないこと。	女性	70代
近くにお店がなく高齢者には不便。近くに病院がない。	女性	50代
運送会社の駐車場があるため、大型トラックの早朝、夜中、朝方の往来が激しい。車のない人は買物は大変。	男性	60代
病院の数が少ない。	女性	30代
バス、交通が不満。買物や電車に乗るまでが大変。	男性	70代
子育てしながら働ける仕事が少ない。ひとり親なので、高収入の仕事を探せば、子育てとの両立が難しくなる。子供を預けられる時しか働けないので、仕事に限られる（残業ができない、日・祝日の出勤ができない）。収入が低くなるので生活の安定につながらない。	女性	30代
福島県現住人口調査によると、須賀川市の人口は県内5番目の7万6千人強、その中の生産年齢も4万5千人強いるが、人口の割に郡山市のベッドタウン化しており、鏡石町のニプロファーマのような生活を支える大型企業の数少なすぎると思います。市町村合併の時に8万人になった人口が増えずまた横ばいでもなく、じり貧状態なのは、暮らしを支える働き場が近くには無いことが一因ではないかと思えます。	女性	60代
少子化対策が全国と比較しても講じられていない。不必要な防災公園、公共施設等に予算を支出するなら、将来を見据え必要な少子化対策に支出すべきである。	男性	40代
働ける企業がない。車がないと住みにくい。不便。	男性	50代
施設、組織が無い。	男性	70代
福利厚生が十分に整った優良企業がまだまだ少ないと感じます。また、通学路の防犯灯が不足しているエリアがあると思えます。	女性	30代
少子化問題は医療費だけでなく、学校、こども園給食費も無料にして欲しい。5才児～ではなく、0才児から保育料無料にもして欲しい。大学まで行くには学費が心配である。公園などが少なくのびのび遊ぶ場所がない。	女性	30代
どこに何があるか分からない。	女性	30代
今は、車の運転が出来るので買い物などはできますが、免許がなくなった後、買い物する所が自転車や歩きでは遠くて行けません。宮の杜で近くに歩いていける店があればもっと便利です。高齢者になった時、話し合う人がいないと思う。近所でもほとんど顔を見ないし、住んでいる人と名前が全然一致していません。	女性	40代

## Ⅱ 調査結果

内容	性別	年齢
商店街に買物に行くのに無料の駐車場が少なく、ほとんど有料になっている。客はショッピングセンターへ行ってしまう。	男性	70代
交通の便が悪く、ヨークベニマルのバスも市のコミュニティバスも通っておらず、高齢者になるのでこの先とても不安です。	女性	60代
幼稚園バスが、カーブの所や道路交差点に止まるので大変危険でやめてほしい。	女性	40代
車がないと買物は出来ない。	男性	70代
今の住まいの近くに公園もなく、子供達が遊べる場所がありません。	女性	60代
交通が不便である。医療機関も少ないと思う。防災では消火栓の取り付けがない。	女性	50代
もっとひとり親を助けてほしい。児童手当をもらっても稼ぎが多いと減らされて余計生活が大変になる。	女性	40代
高齢者が集える小規模施設があれば良い。高齢者、障がい者等の足の不自由な方々の小型巡回車があれば良いと思う。	男性	80代～
交通の便が悪い。お店が遠い。	女性	70代
宮の杜に住んでいます。将来車を手放した時に買い物に行く交通手段がなくなる。JR駅の設置と循環バスをお願いします。	女性	50代
遊べるところが少ない。	女性	30代
近くの公園（白石坂・宮の杜）は遊具が壊れ、草が目立つので、子ども達が安心して遊べる公園設備、環境が整うと良いと思います。	女性	40代
自転車の走る車線がないため危険なところを走らなければならない。特に上町の坂は、歩道が非常にせまい。「テッテ」の前の、市としてのメインストリートに店がなく、人を呼べない。若者の職場がない。公立岩瀬病院で治せる疾患が少ない。	女性	60代
自然豊かな環境が身近にない。防災、防犯の組織体制はどこにあるのか。	女性	60代
日常的な必要品などについて、シャトルバスなどがコースから外れる。	女性	60代
現在は全て車で利用なので、車が運転出来なくなった事を考えると買い物や病院への通院などの手段がなくなる。	女性	30代
交通の利便性としてバスの運行がない。救急の場合受入病院に不安。	男性	70代
企業が少ない。スーパーがない。	男性	50代
市のスポーツ施設（プール、サッカー場など）がない。	男性	40代
車がないと何も出来ない。須賀川市内の一部には循環バスがあるのに、稲田地区は通っていない。	女性	30代
道路が悪い、バスがない。緊急病院がない。	男性	70代
緊急を要する病気の時、郡山市の病院まで行かなければならない。	男性	60代
図書館の充実。	男性	60代
産婦人科が少ない。	女性	50代
梅田村はお店もないし、バスで行かないと買物が出来ない。	女性	80代～
町の中に商店が少なくて、買物が大変です。	女性	80代～

内容	性別	年齢
交通手段がない。	女性	10代
交通機関が不便な為、どこに行くにも車が必要なため。	女性	50代
交通が不便。地域により駅までが遠く、商店も少なく生活するためには自家用車が必要であるため。	男性	30代
施設に入れない。	男性	60代
日、祝日に見てくれる病院が少ない。	女性	50代
時間外医療で救急車を使わずに行くのが難しい。なかなか受け入れてもらえない。	女性	60代
働く会社があっても雇用体制（求人募集）はない。買い物は車がないと出来ない。須賀川市になり、本庁に行かないと手続きなどが出来ない事が不便。	女性	50代
市内で働くことができる就職先が少ない。	男性	40代
休日夜間の小児医療体制が不十分。	男性	30代
子供が思いきりボール遊び出来る公園が少ない。高齢者の集う場所や活動が少ない。	男性	60代
救急車を呼んで病院へ搬送する際、市内の病院では受け入れてもらえず30分近く救急車の中で待機することがあった。市内の病院に受け入れてもらえる体制作りが必要と思う。防災無線がほとんど聞こえない。	女性	50代
産婦人科の病院や医院が少ないと思う。病気やケガの時、時間外だと専門の先生がいないので、別の日に病院に行かなければいけない。	女性	40代
公園など汚く、掃除をもっと綺麗にしてほしい。	女性	30代
バスが廃線になり、高齢者にとっては不便だと思います。夜間救急があるのは良いが、担当医の専門外の病気の場合、翌日また病院に行かなければならず、不便だと思います。田舎なので仕方ないのかもしれないが、街灯が少なく、夜は怖い。	女性	20代
今は運転出来るので買物、運動に行けますが、運転出来なくなった時に不安です。救急の場合、受け入れてくれる病院を探すのが大変と聞きました。	女性	60代
公園の遊具がどうやって遊べばいいのか分からない。ブランコも1～2歳用の物が少ない。長いスベリ台も少ない。	男性	30代
あおば町にもバスを通して欲しい。	女性	60代
まわりに何もないため、車でないと動けない。	女性	50代
交通の便が悪い。	女性	60代
バスの本数が少ない。	女性	80代～
どこまでも車イスで動ける程の整備状況ではない。働き場所は近くにないので、恵まれているとは思わない。何かあった場合の防災、場所も良くわからないでいる。	女性	50代
市街地から遠く、中心部集中の体制であり時間がかかりすぎる。行政の細やかな気配りを望みます。	男性	60代
医療に関しては、郡山市と比べてあまりにも不便。	男性	30代

内容	性別	年齢
バスが通ってないので、どうしても自動車で移動しなければならない。病院も遠いので、不便だと思います。	女性	50代
田舎のため、障がい者支援施設が近くにない。駐在所が遠く、パトロールがほとんど来ない。	女性	20代
公園の数はあるが、どれも同じで特徴のないものが多い。それぞれ差別化を計れば、市民の交流の場となり得ると思う。	男性	40代
子どもが幼い頃に共働きで、インフルエンザなどで数日仕事を休まなければならないとき、預かってくれる安心なところがなく、とても困った。シルバーセンターでお世話して下さる方をみつけたが、今後、元気な60才代もどんどん子育て支援に活用していけば、若い年代もシルバー年代も、生き生き生活や仕事ができると思う。	女性	50代
障がい者に対しての行政の援助や支援がしっかり整っていないと思える。	女性	50代
高齢化に対する支援が整っていない。公共施設で利用できるサービスが整っていない。	男性	60代
公共の交通手段（買物、通院）がない。	女性	70代
周りに住宅やアパートが急増したことで、コミュニケーションが取れないので、いざという時どう対処したら良いかわからない。地域の防災、防犯に関する決まり事や決め事がうまく周知されていないようで不安である。	女性	60代
市街地から離れているため、年をとった時に交通の便が悪すぎる。バスなどもあまりなく、老後を安心して生活できるのか不安が大きい。	女性	40代
夜間救急の受入れ体制の充実。	男性	30代
市の庁舎が行きづらい。買い物に車を使わないとどこにも行けないので先行きに不安を感じる。	男性	60代
救急車が来ても、30分～40分と行く先が見つからない事が多い。西郷村と比べると、各段に働く場所が少ない。	男性	60代
交通の便が悪い。	女性	60代
利用できる公的機関がないに等しい。歩道はあるが極めて危険。	男性	80代～
道路等、段差がありすぎる。	女性	60代
公共交通システムが偏っている。利便性が整っているのは中心市街地と言われている地域のみである。	男性	70代
郡山市に比べると、施設等が不足していると思います。	女性	40代
道幅が狭い。	男性	70代
車がなかったら、買い物に行ける近くの店があまりない。共働きの場合、子供を預ける場所が近くにない。	女性	30代
公共施設（サブアリーナ）など、個人や家族で利用できるようにしてほしい。いつも予約や大会で利用できない。民間の施設ではお金がかかりすぎるので、年金生活者には負担が大きい。屋内の温水プールがほしい。子供から大人まで楽しめるため健康的だと思う。	女性	60代

内容	性別	年齢
車がないと買物に行けない	女性	50代
バス、電車の本数が少なすぎる。	女性	50代
電車がない。車がないとどこにも行けない。夜は暗いし、外灯も人も少ないので部活帰りの中高生など危ない。映画館がない。不妊治療できる病院がない。郡山の病院しか紹介されない。	女性	20代
夫が車椅子の生活をしているので段差の少ない道路であれば夫婦で散歩も出来るようになり、外の空気、景色も楽しめると思います。	女性	60代
学校の近くの交通設備、安全対策が不十分。大学卒業後に働きたいと思う企業がない。労働環境、福利厚生がしっかりしている企業をもっと誘致してほしい。須賀川市の歴史、文化、観光など、若い人に興味をもってもらえるようなPRや行事を実施してほしい。	女性	20代
人口が減っている事もありますが、子供達が好きな部活に入る事が出来なかつたりするようで残念です。高齢者が健康でいられる様に近くに運動できる（スポーツジム等）場所があると良いと思います。温泉プールを使っていたら足や腰の悪い人でも運動が出来ると思う。	女性	60代
子供が遊べる公園が少ない。深夜帯、子供が急病になった時に診療できる病院がない。	女性	50代
障がい者への認知はしていますが、理解がまだ不十分で障がい者への差別的な発言をする人がまだいる事。	男性	40代
バスなど、低コストで利用できるものが田舎では廃止されていき、不便さが増している。また子どもの通学エリアも遠い地区などはバス整備・通学なども視野に入れてほしい。	女性	30代
学童保育を6年生まで早急に実施し、働く世代が安心して暮らせるようにすべきと考える。	男性	60代
小さい子供を安心して遊ばせる場所がなく、いつも遠くまで車で連れ出していた。	女性	70代
駅に授乳室がない。赤ちゃんや高齢者に優しいトイレとは言えない。青少年が健全に遊んだりスポーツできたりする場所、設備が少ない。新しくなった市役所を住民がどう利用できるのか、いまいち分からない。市バスや循環バスの本数が少なすぎて不便。須賀川アリーナの市民利用のハードルが高い。料金が高めであり、レベルが高い人ばかり集まっているので入りづらい。	女性	20代
もっと大型のショッピングセンターを作ってほしい。障がい者のガソリン券やタクシー券が少なすぎる。	男性	40代
今の年齢ならば良いが、今後10～15年後に対しては不安である。市としては住みやすいと感じているが、地域としては不安である。	女性	60代
夜間に小さな子どもの具合が悪くても対応してくれない。郡山の病院に行くしかない。休日や夜間の料金が高すぎる。	女性	40代

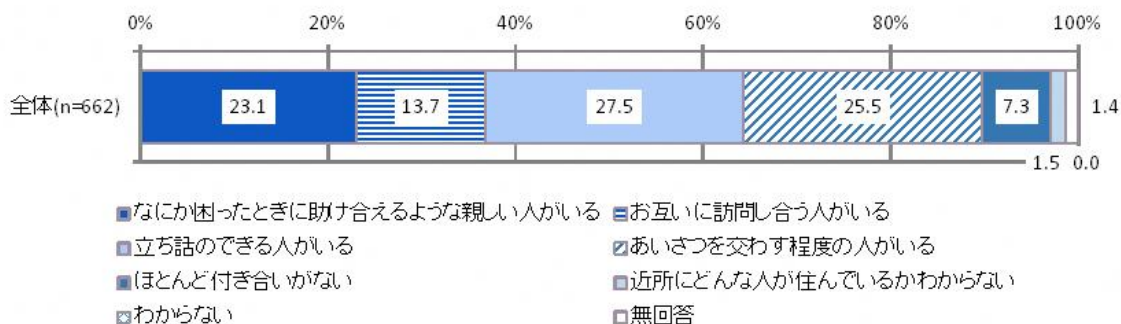


## Ⅱ 調査結果

内容	性別	年齢
保育料が高く、少子化が進んでしまうと思う。安心して子供を産めない。総合病院がない。住んでいる地域にもよるが、交通の利便性が悪い。	男性	30代
これから老いた時のことを考えると心配ばかりです。施設があってもそこまでの交通が整っていないと思います。仕事は須賀川にはなく郡山に通勤しています。病院には専門医や科がなく、持病に関するシステムみたいなものが必要かと思えます。	女性	20代
自家用車がないと不便。バスの本数が少ない。	女性	40代
室内で遊べる所がもう少し増えると嬉しいです。	女性	20代
情報高校の通学が不便。道路の整備も進まない。街灯が少ない。	女性	40代
休日にバスが運休している。近くにスーパーがない。	女性	60代
救急病院が少なく、救急車を要請しても遠くの病院になってしまう。	男性	50代
買い物をする時、食料品や日用品は買えるが、衣類は買える店が少なすぎるので、他の市や県まで行っています。広報があまり機能してない。	女性	30代
子供と遊べる公園が不足している。特に長沼や岩瀬地区・他市に比べ、救急医療が整っていない。	男性	30代
気楽に出かけられる所がほしい。	女性	60代
高齢化しつつあり、買い物や通院が不便。急な病気でも夜間休日対応センターに行くまでに距離がある。	女性	50代
車がない人にとってはバスの時間がない。	女性	40代
買い物が済ませられるような大きなデパートやディスカウントモールなどがあつた方が良くと思う。	女性	40代
病院の数が少ない。情報が少ない。	男性	30代
車がないと買物に行けない環境です。周りに子どものいる家庭が少ない。段々と小・中学校がなくなってしまうのではないかと考えています。増々一人暮らしのお年寄が増えるのでは。	男性	50代
青少年の健全育成を目指す環境を作るべき立場の大人たちに、高い意識があるように見えない（教諭の逮捕など）。健全育成・学力向上は子どもよりも大人への意識改革が必須。	男性	30代
あまり管理されていない環境の公園があるように感じる。	男性	30代
岩瀬地区なので買い物に不便です。通勤に時間がかかる人が多いと思います。	女性	60代
牡丹園、みどりが丘公園、広いが魅力に欠ける。夜間等、診療費が高い。	女性	40代
買物や病院に行きたい時に自由に行けない	女性	50代
夜間や休日に子供の受診できる病院が少ない（電話などで相談しても様子を見てと言われることが多い）。	女性	30代

(4) ご近所付き合いの程度

問 12 あなたは、ご近所の方とどの程度の付き合いがあるかお答えください。(1つだけに○)

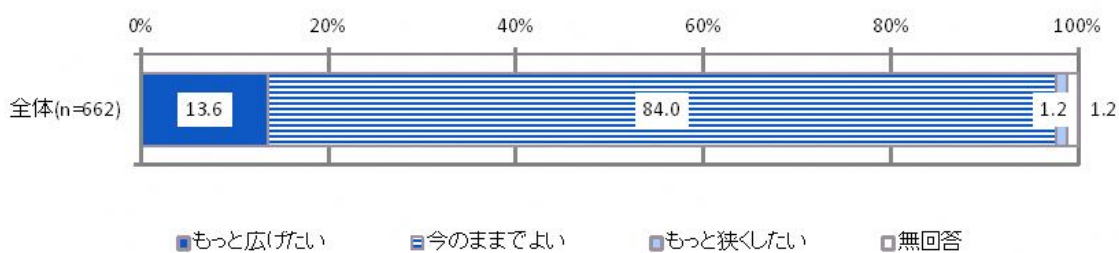


ご近所付き合いの程度については、「立ち話のできる人がいる」が27.5%と最も多く、次いで、「あいさつを交わす程度の人がある」(25.5%)、「なにか困ったときに助け合えるような親しい人がいる」(23.1%)、「お互いに訪問し合う人がいる」(13.7%)となっている。

(5) ご近所との付き合いを広げたいと思うか

問 13 あなたは、ご近所との付き合いを広げたいと思いますか、お答えください。

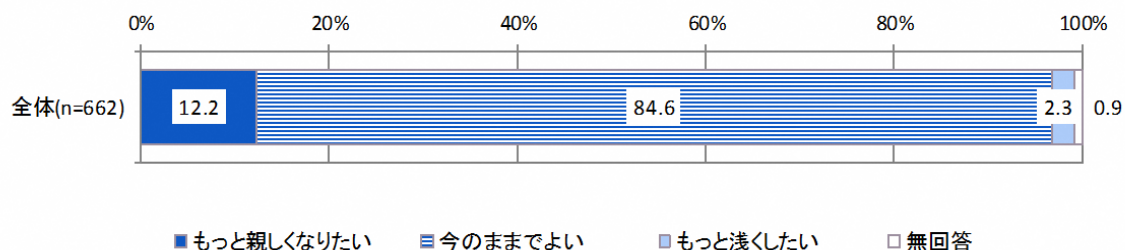
(1つだけに○)



ご近所との付き合いを広げたいと思うかについては、「今のままでよい」が84.0%と最も多く、次いで、「もっと広げたい」(13.6%)、「もっと狭くしたい」(1.2%)となっている。

(6) ご近所との関わりを深めたいと思うか

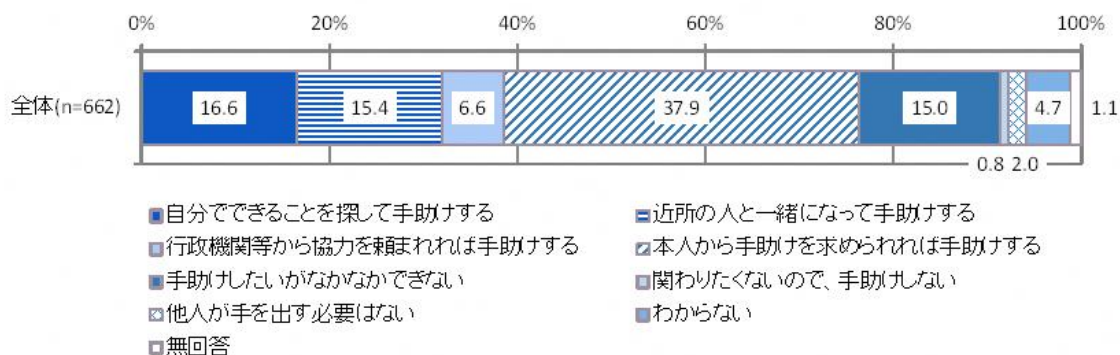
問 14 あなたは、ご近所との関わりを深めたいと思いますか、お答えください。(1つだけに○)



ご近所との関わりを深めたいと思うかについては、「今のままでよい」が84.6%と最も多く、次いで、「もっと親しくなりたい」(12.2%)、「もっと浅くしたい」(2.3%)となっている。

(7) ご近所で手助けが必要な場合の行動

問 15 あなたは、ご近所で高齢者やこども、障がいのある人、子育て等で手助けが必要な人がいたらどうしますか、お答えください。(1つだけに○)

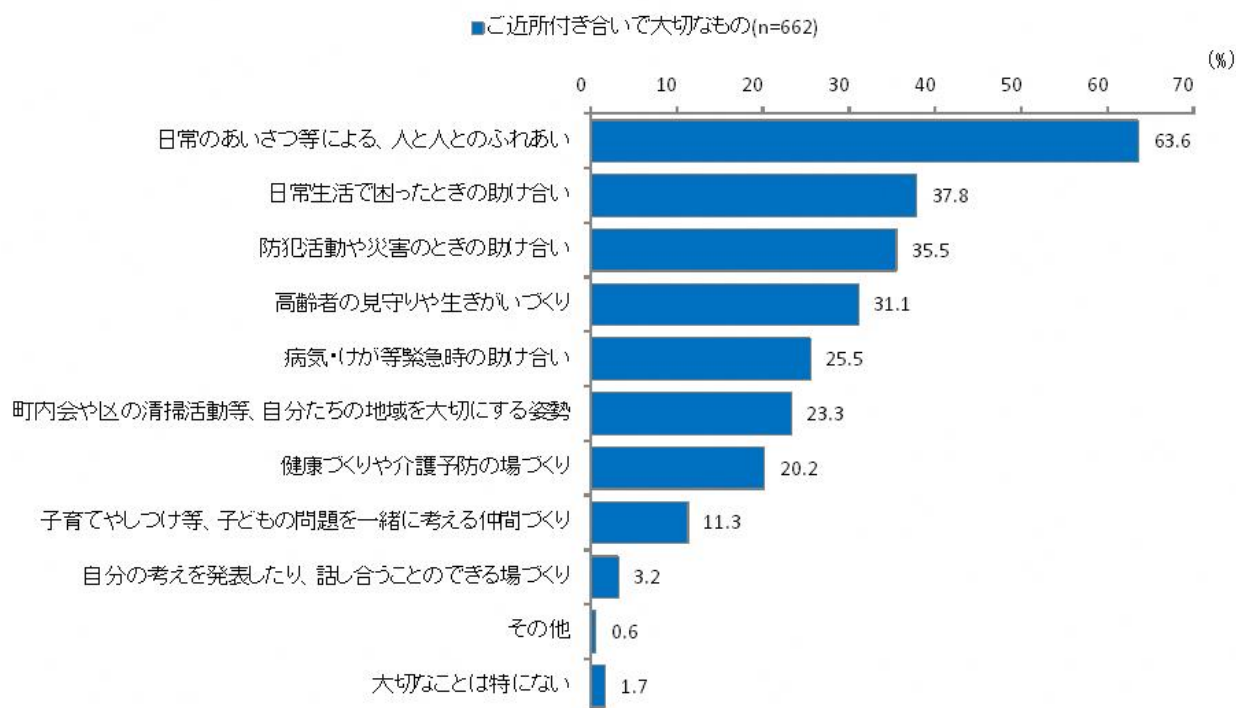


ご近所で手助けが必要な場合の行動については、「本人から手助けを求められれば手助けする」が37.9%と最も多く、次いで、「自分でできることを探して手助けする」(16.6%)、「近所の人と一緒にになって手助けする」(15.4%)、「手助けしたいがなかなかできない」(15.0%)となっている。



(8) ご近所付き合いで大切なもの

問 16 あなたは、ご近所との付き合いや関わりでどんなことがこれから大切になると思いますか、お答えください。(主なもの3つまでに○)



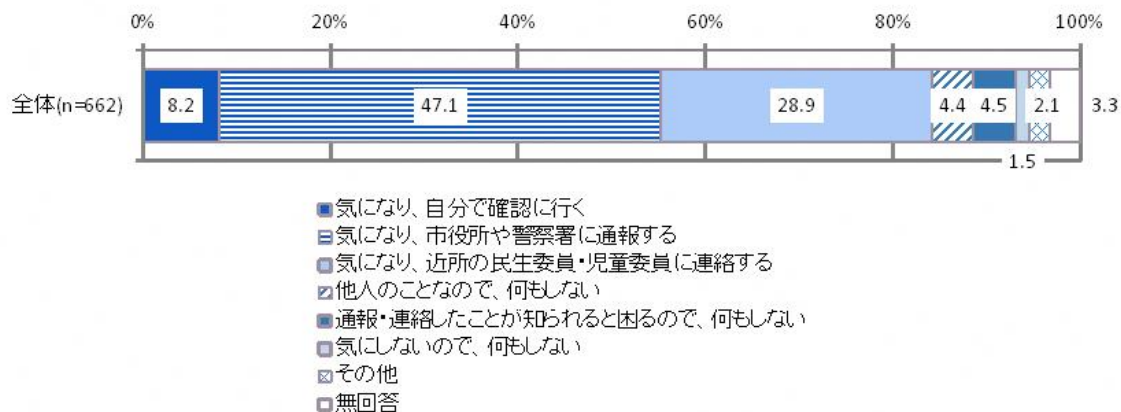
ご近所付き合いで大切なものについては、「日常のあいさつ等による、人と人とのふれあい」が63.6%と最も多く、次いで、「日常生活で困ったときの助け合い」(37.8%)、「防犯活動や災害のときの助け合い」(35.5%)、「高齢者の見守りや生きがいづくり」(31.1%)となっている。

問 16 その他記述一覧

内容	件数
町内での行事を通し一緒に活動する時間	1
空き家の対応	1

(9) 近所で虐待の可能性がある場合の行動

問 17 あなたの家のご近所で、子どもや高齢者等の虐待の可能性がある場合、あなたはどんな行動をしますか、お答えください。(1つだけに○)



近所で虐待の可能性がある場合の行動については、「気になり、市役所や警察署に通報する」が47.1%と最も多く、次いで、「気になり、近所の民生委員・児童委員に連絡する」(28.9%)、「気になり、自分で確認に行く」(8.2%)、「通報・連絡したことが知られると困るので、何もしない」(4.5%)となっている。

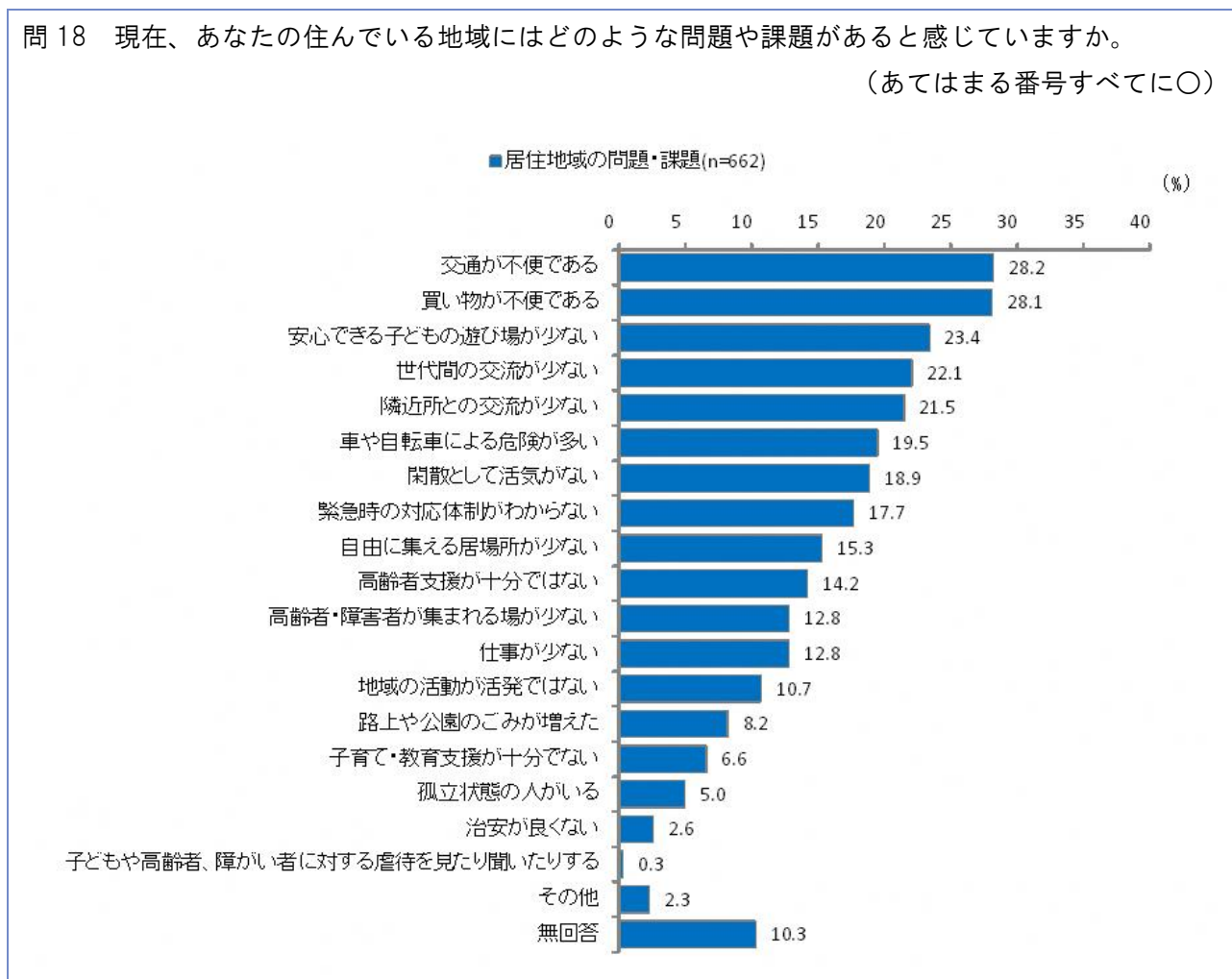
問 17 その他記述一覧

内容	件数
わからない・その場にならなければわからない	5
しばらく様子を見る・程度によって通報する	3
近所の方と確認をしてから対策を考える	2

(10) 居住地域の問題・課題

問 18 現在、あなたの住んでいる地域にはどのような問題や課題があると感じていますか。

(あてはまる番号すべてに○)



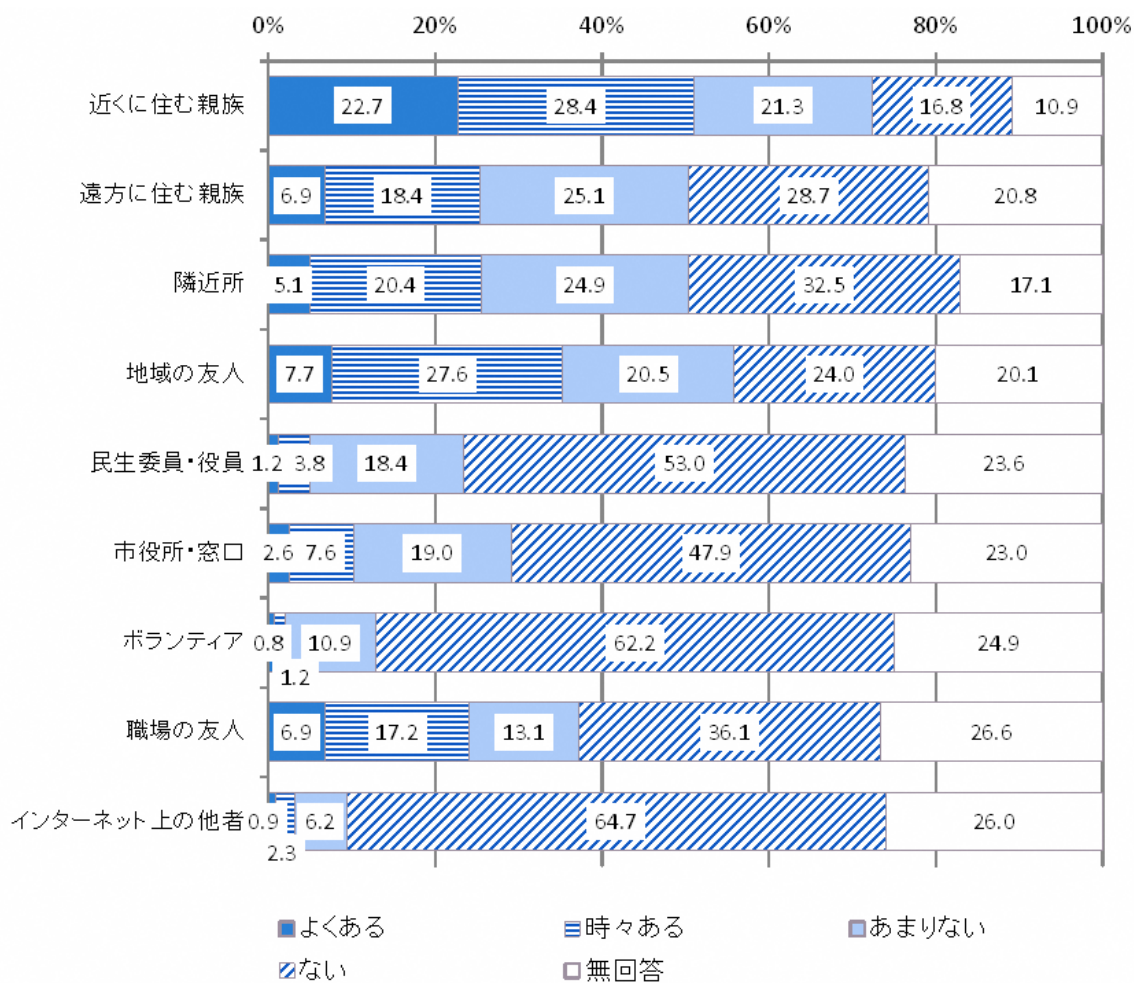
居住地域の問題・課題については、「交通が不便である」が28.2%と最も多く、次いで、「買い物が不便である」(28.1%)、「安心できる子どもの遊び場が少ない」(23.4%)、「世代間の交流が少ない」(22.1%)となっている。

## 問 18 その他記述一覧

内容	件数
ゴミの処理・出し方	3
地域の将来・方向性	3
各町内に集会場が設置されているが、あまりにも利用されていない	1
特定の人との交流のみである	1
廃屋がある	1
自治会に所属しない人が多い	1
放射線対策が万全ではない	1
犬・猫のフン	1

(11) 困ったことがある場合の相談相手・助けてもらう相手

問 19 あなたは困ったことがある場合、次の人に相談に乗ってもらったり、実際に助けてもらうことはありますか、お答えください。(それぞれあてはまる番号に○)

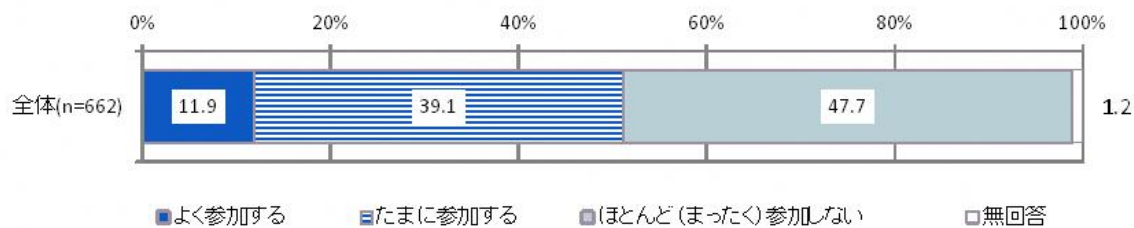


困ったことがある場合の相談相手・助けてもらう相手について、【よくある】と【時々ある】を合わせた“ある”を見ると、「近くに住む親族」が 51.1%と最も多く、次いで「地域の友人」35.3%、「隣近所」25.5%となっている。

一方、【ない】と【あまりない】を合わせた“ない”を見ると、「ボランティア」が 73.1%と最も多くなっている。

(12) 地区の催しや行事への参加

問 20 あなたは、地区の催しや行事（公民館活動等）に参加していますか。（1つだけに○）

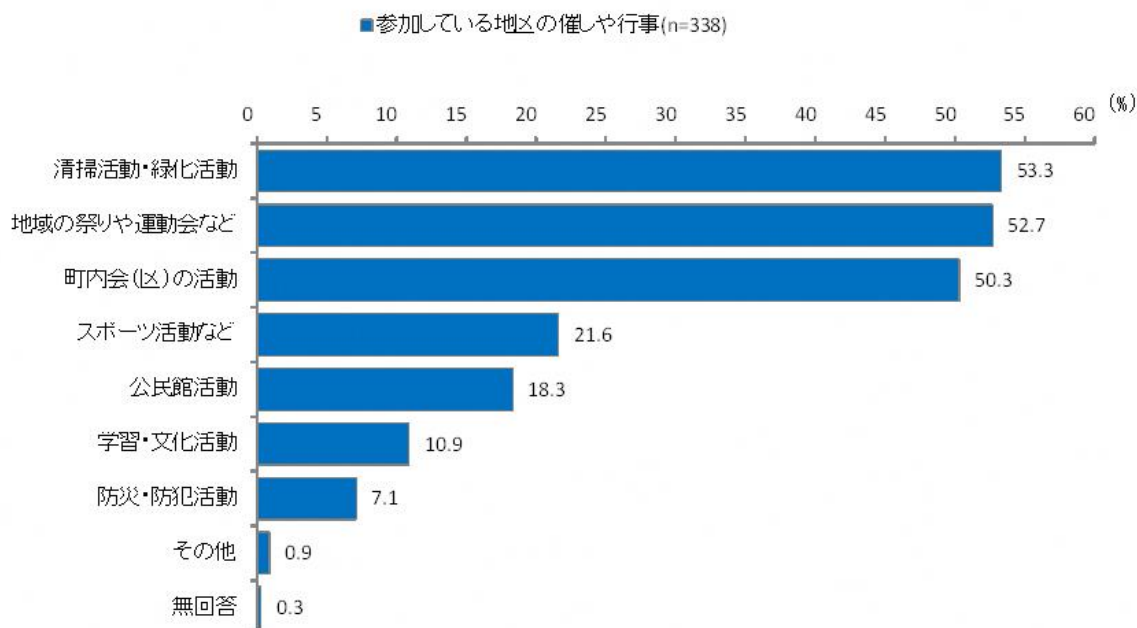


地区の催しや行事への参加については、「ほとんど（まったく）参加しない」が 47.7%と最も多く、次いで、「たまに参加する」(39.1%)、「よく参加する」(11.9%) となっている。

(13) 参加している地区の催しや行事

【問 20 で「1」または「2」と答えた方に伺います】

問 21 あなたは、どのような地区の催しや行事に参加していますか。(主なもの3つまでに○)



参加している地区の催しや行事については、「清掃活動・緑化活動」が 53.3%と最も多く、次いで、「地域の祭りや運動会など」(52.7%)、「町内会(区)の活動」(50.3%)、「スポーツ活動など」(21.6%)となっている。

問 21 その他記述一覧

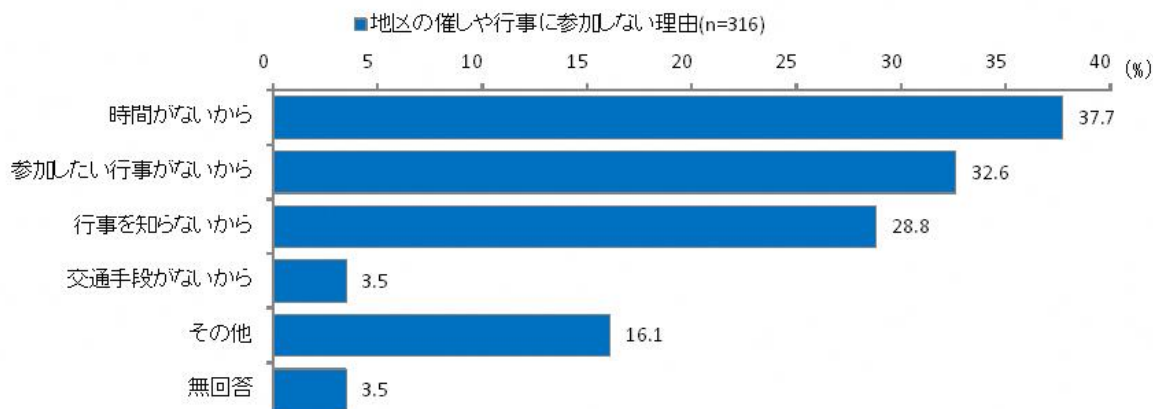
内容	件数
老人クラブ活動	1
リハビリ	1

(14) 地区の催しや行事に参加しない理由

【問 20 で「3」と答えた方に伺います】

問 22 地区の催しや行事（公民館活動など）に参加されない理由は何ですか。

（あてはまる番号すべてに○）



地区の催しや行事に参加しない理由については、「時間がないから」が 37.7%と最も多く、次いで、「参加したい行事がないから」(32.6%)、「行事を知らないから」(28.8%)となっている。

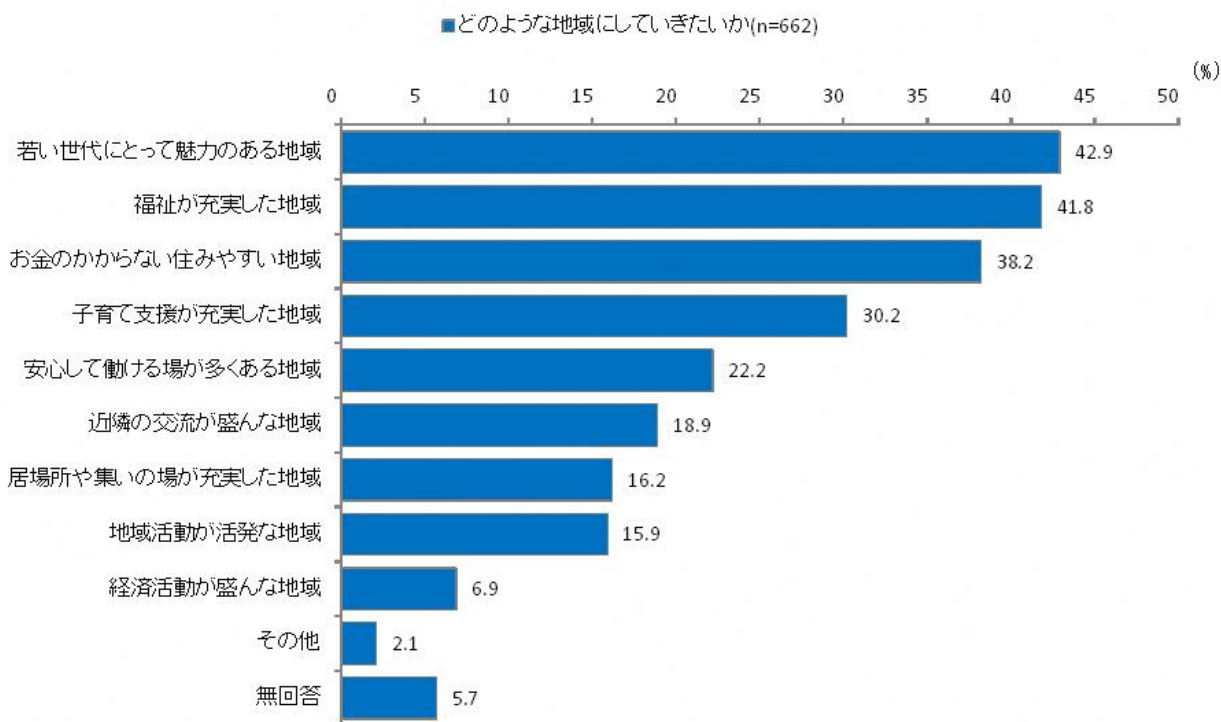
問 22 その他記述一覧

内容	件数
身体・体力的な理由（病気・足が悪いなど）	17
参加したくない・参加に抵抗がある	6
高齢のため	3
別の集団（ボランティア・サークル等）に所属している	3
人間関係（上下関係、知人がいない等）	3
親が参加しているから	2
休日が合わない・繁忙のため	2
配偶者に任せている	1
経済的な理由	1
何となく	1
老人ホームにいるため	1
障がい者のため	1
要介護のため	1
外出が困難なため	1



(15) どのような地域にしていきたいか

問 23 今後、あなたの住んでいる地域をどのような地域にしていきたいですか。  
(主なものを3つまでに○)



どのような地域にしていきたいかについては、「若い世代にとって魅力のある地域」が42.9%と最も多く、次いで、「福祉が充実した地域」(41.8%)、「お金のかからない住みやすい地域」(38.2%)、「子育て支援が充実した地域」(30.2%)となっている。

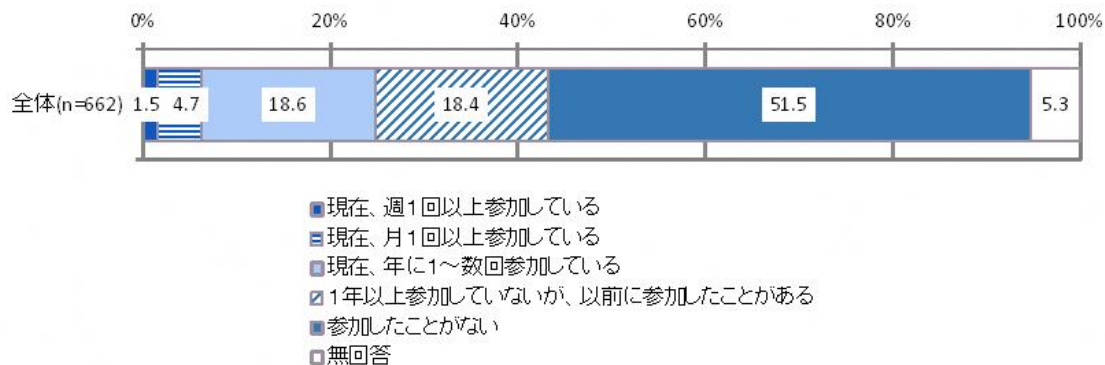
問 23 その他記述一覧

内容	件数
安心して生活が出来る地域	3
穏やかな地域	1
交通が便利な地域	1
今ある行事を続けていける地域	1
地域の人口の増加	1

### 3 地域活動（ボランティア活動等）への参加について

#### (1) 地域活動への参加

問 24 あなたは地域活動（ボランティア・市民活動等）に参加していますか。（1つだけに○）

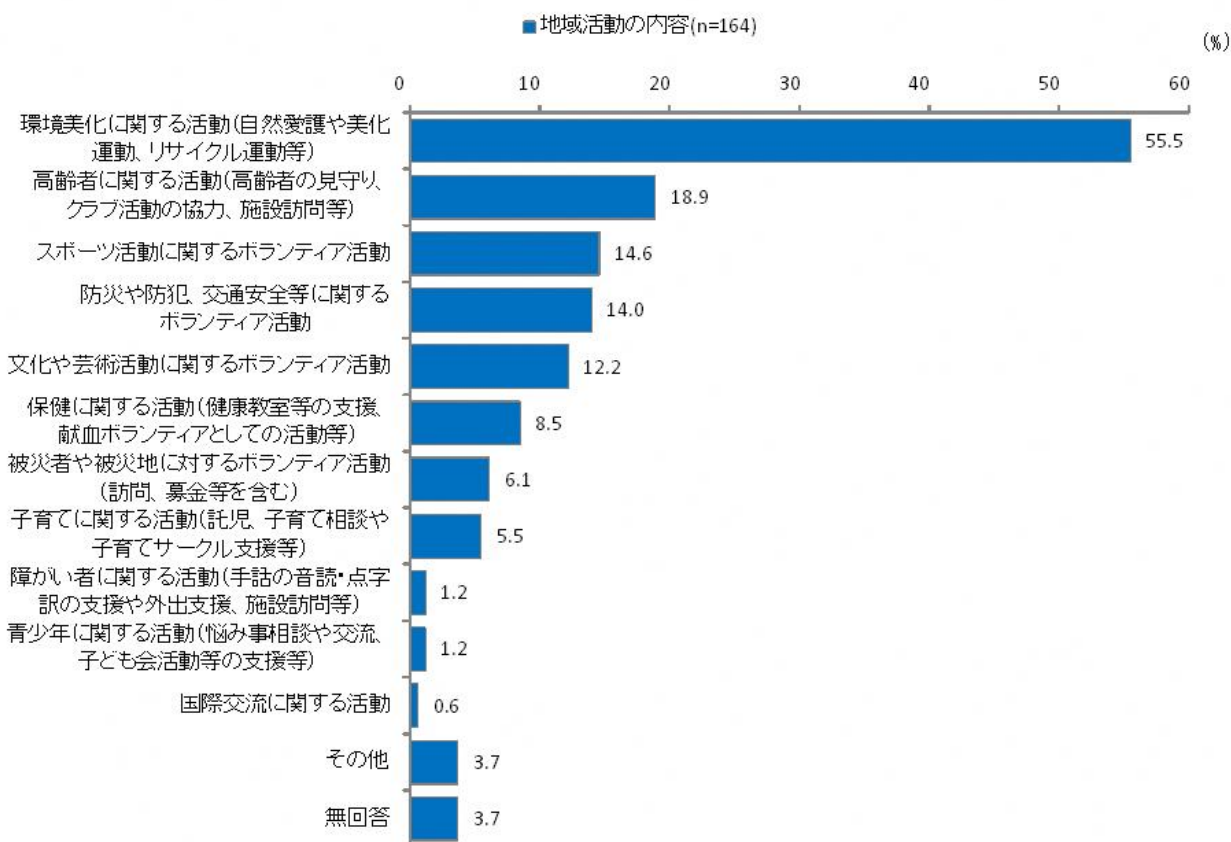


地域活動への参加については、「参加したことがない」が51.5%と最も多く、次いで、「現在、年に1〜数回参加している」(18.6%)、「1年以上参加していないが、以前に参加したことがある」(18.4%)、「現在、月1回以上参加している」(4.7%)となっている。

(2) 地域活動の内容

【問 24 で「1」「2」「3」と答えた方に伺います】

問 25 どのような活動をされましたか。(あてはまる番号すべてに○)



地域活動の内容については、「環境美化に関する活動（自然愛護や美化運動、リサイクル運動等）」が 55.5%と最も多く、次いで、「高齢者に関する活動（高齢者の見守り、クラブ活動の協力、施設訪問等）」(18.9%)、「スポーツ活動に関するボランティア活動」（14.6%)、「防災や防犯、交通安全等に関するボランティア活動」（14.0%) となっている。

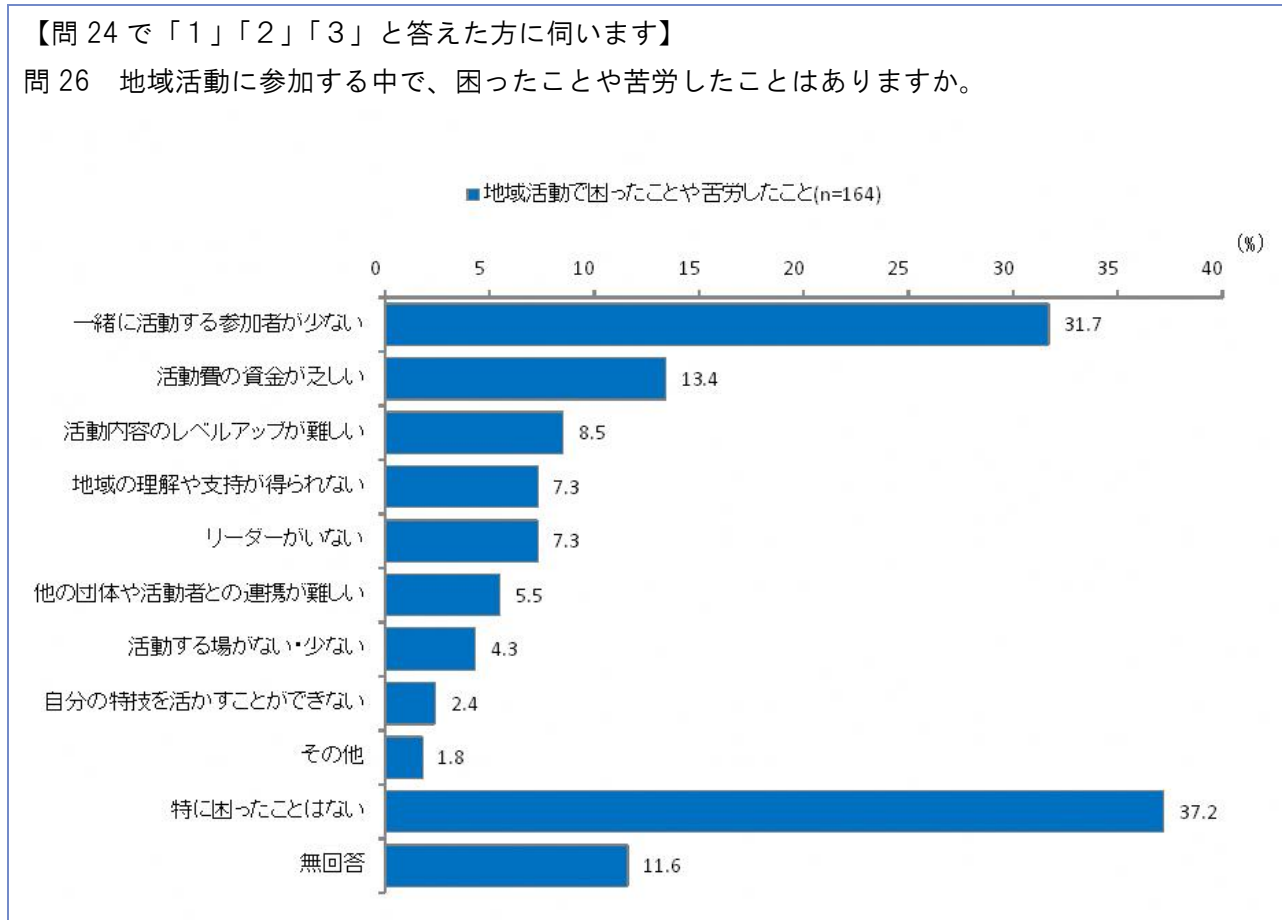
問 25 その他記述一覧

内容	件数
学校への支援（図書ボランティア等）	3
地区の行政、行事の運営の活動	1
婦人会	1
病院内のボランティア	1

(3) 地域活動で困ったことや苦勞したこと

【問 24 で「1」「2」「3」と答えた方に伺います】

問 26 地域活動に参加する中で、困ったことや苦勞したことはありますか。



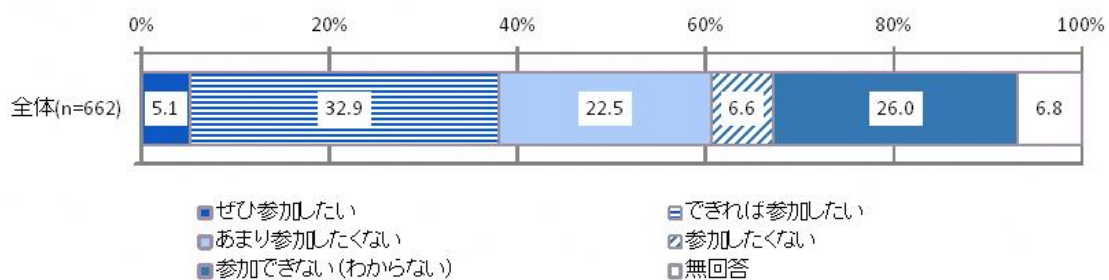
地域活動で困ったことや苦勞したことについては、「一緒に活動する参加者が少ない」が31.7%と最も多く、次いで、「活動費の資金が乏しい」(13.4%)、「活動内容のレベルアップが難しい」(8.5%)、「地域の理解や支持が得られない」(7.3%)となっている。なお、「特に困ったことはない」が37.2%となっている。

問 26 その他記述一覧

内容	件数
時間帯によって参加が難しい時がある	1
親や身内の介護で忙しい	1
ボランティア活動があることを知る機会がない	1
補助金交付の手続きを簡略化してほしい	1
仕事との両立	1

## (4) 今後の地域活動参加意向

問 27 今後、あなたは地域活動に参加したいと思いますか。(1つだけに○)

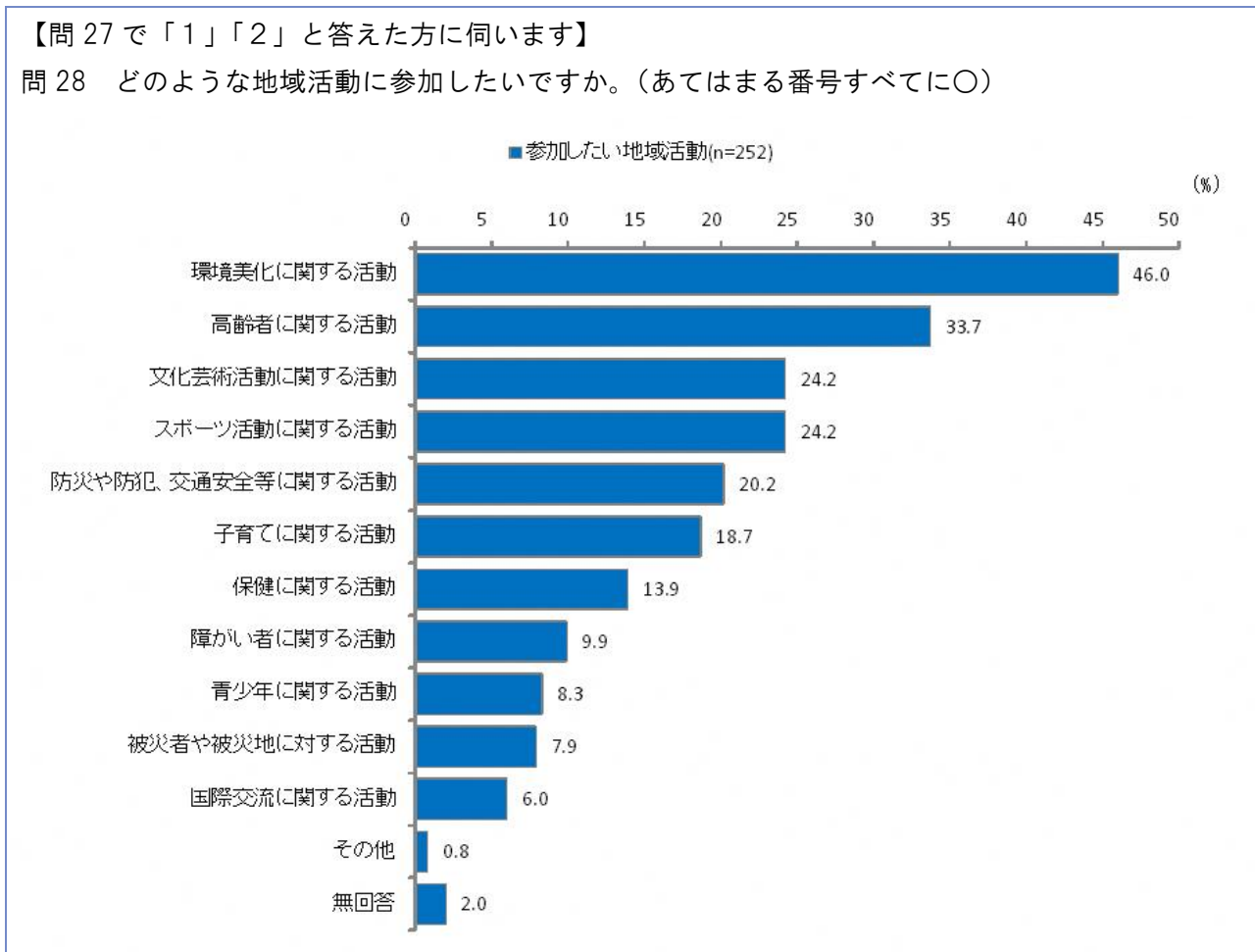


今後の地域活動参加意向については、「できれば参加したい」が32.9%と最も多く、次いで、「参加できない(わからない)」(26.0%)、「あまり参加したくない」(22.5%)、「参加したくない」(6.6%)となっている。

(5) 参加したい地域活動

【問 27 で「1」「2」と答えた方に伺います】

問 28 どのような地域活動に参加したいですか。(あてはまる番号すべてに○)



参加したい地域活動については、「環境美化に関する活動」が46.0%と最も多く、次いで、「高齢者に関する活動」(33.7%)、「文化芸術活動に関する活動」(24.2%)、「スポーツ活動に関する活動」(24.2%)となっている。

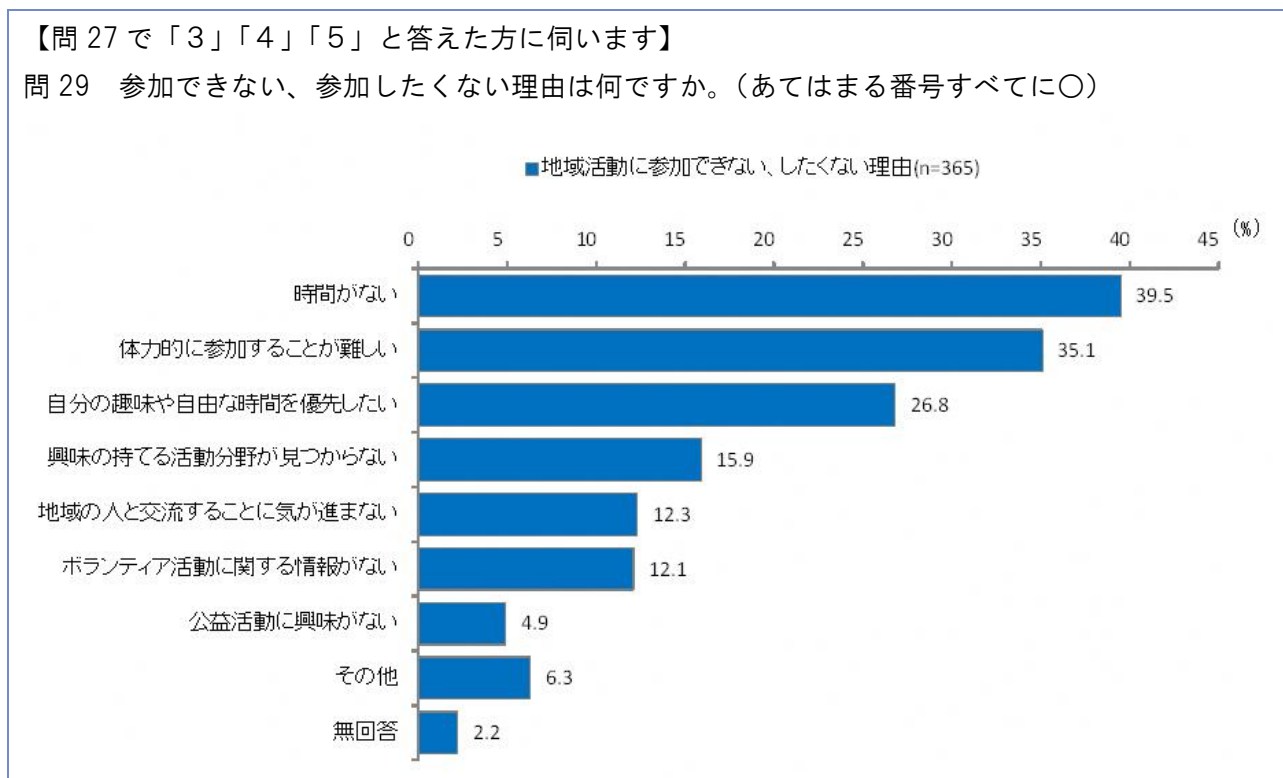
問 28 その他記述一覧

内容	件数
松明あかし・松明をもり立てる会	1

(6) 地域活動に参加できない、したくない理由

【問 27 で「3」「4」「5」と答えた方に伺います】

問 29 参加できない、参加したくない理由は何ですか。(あてはまる番号すべてに○)



地域活動に参加できない、したくない理由については、「時間がない」が 39.5%と最も多く、次いで、「体力的に参加することが難しい」(35.1%)、「自分の趣味や自由な時間を優先したい」(26.8%)、「興味の持てる活動分野が見つからない」(15.9%)となっている。

## 問 29 その他記述一覧

内容	件数
子育て・教育	3
参加に抵抗がある（面倒、やりたくない）	3
仕事	2
参加に意義が見出せない	2
配偶者に任せているため	1
老人ホームにいるため	1
余裕がないため	1
病気・通院のため	1
身体障がい者のため	1
要介護のため	1
近々転居予定のため	1
家族で過ごしたい	1
高齢のため	1
外出が困難なため	1

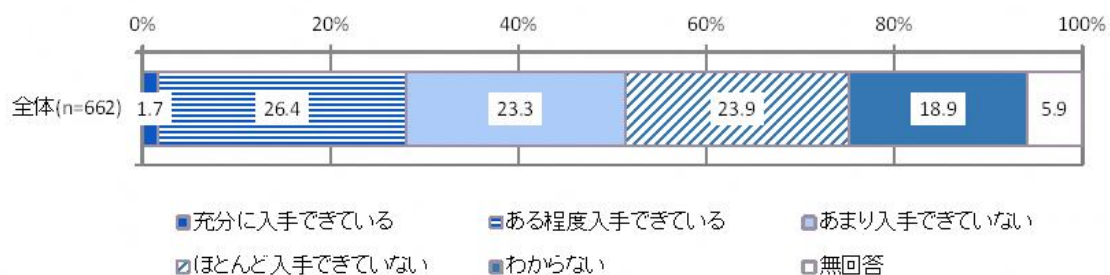


## 4 福祉サービス全般について

### (1) 福祉サービスに関する情報の入手度合い

問 30 あなたは、福祉サービスに関する情報をどの程度入手できると感じていますか。

(1つだけに○)

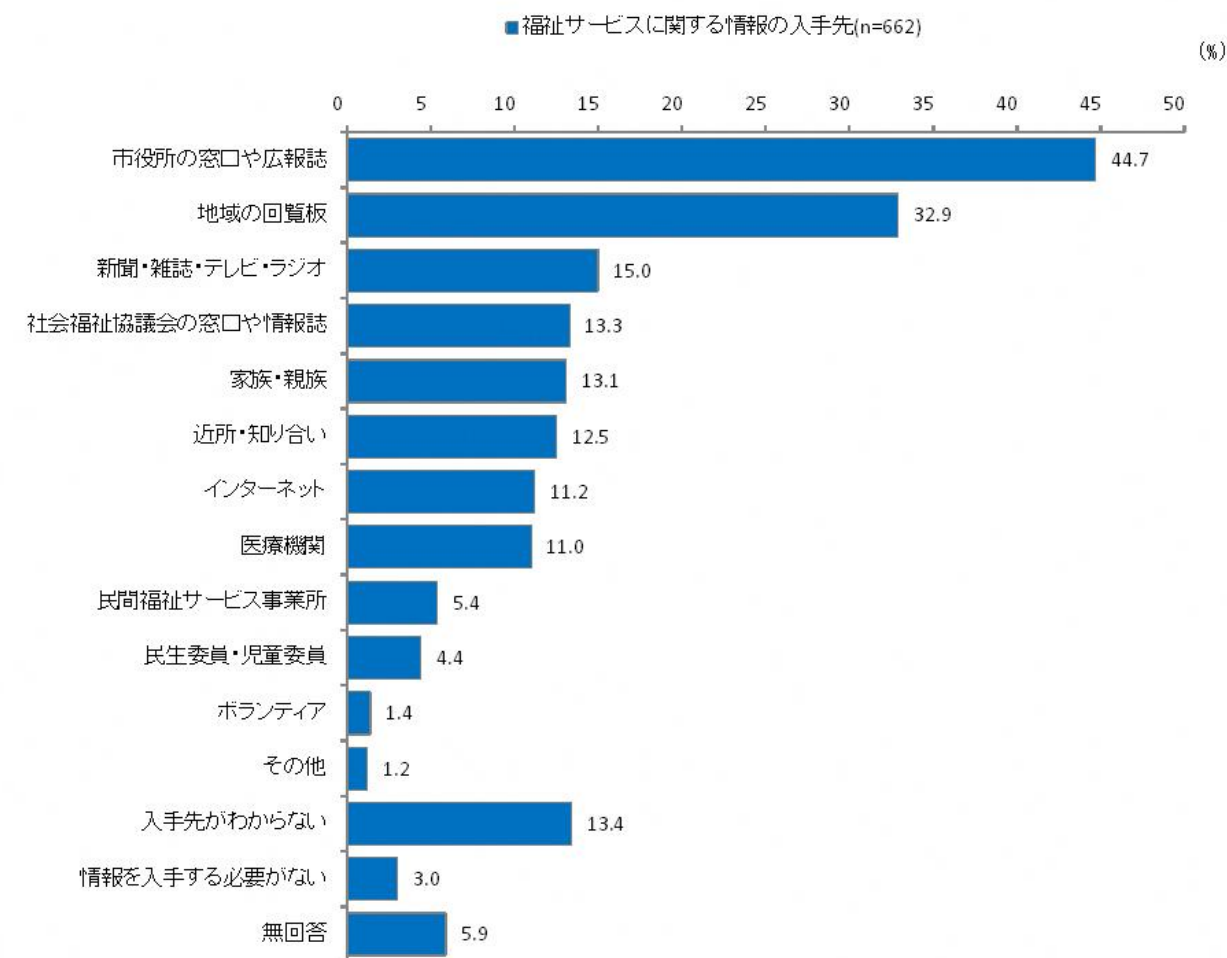


福祉サービスに関する情報の入手度合いについては、「ある程度入手できている」が26.4%と最も多く、次いで、「ほとんど入手できていない」(23.9%)、「あまり入手できていない」(23.3%)、「わからない」(18.9%)となっている。

(2) 福祉サービスに関する情報の入手先

問 31 あなたは、福祉サービスに関する情報をどこから入手していますか。

(あてはまる番号すべてに○)



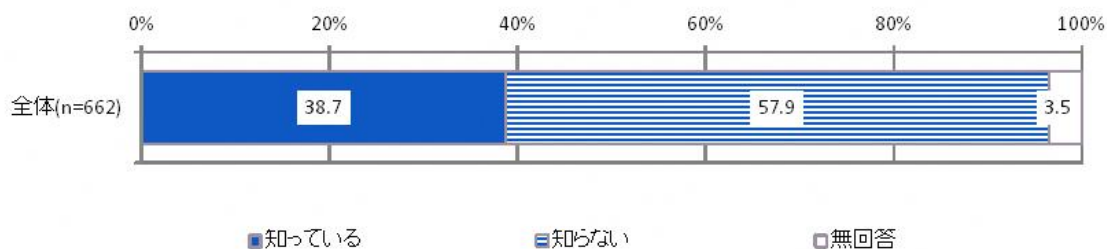
福祉サービスに関する情報の入手先については、「市役所の窓口や広報誌」が44.7%と最も多く、次いで、「地域の回覧板」(32.9%)、「新聞・雑誌・テレビ・ラジオ」(15.0%)、「社会福祉協議会の窓口や情報誌」(13.3%)となっている。なお、「入手先がわからない」が13.4%となっている。

問 31 その他記述一覧

内容	件数
職場・会社	3
ケアマネージャー	2
学校	1
チラシやポスター	1

(3) 居住地区の担当民生委員・児童委員を知っているか

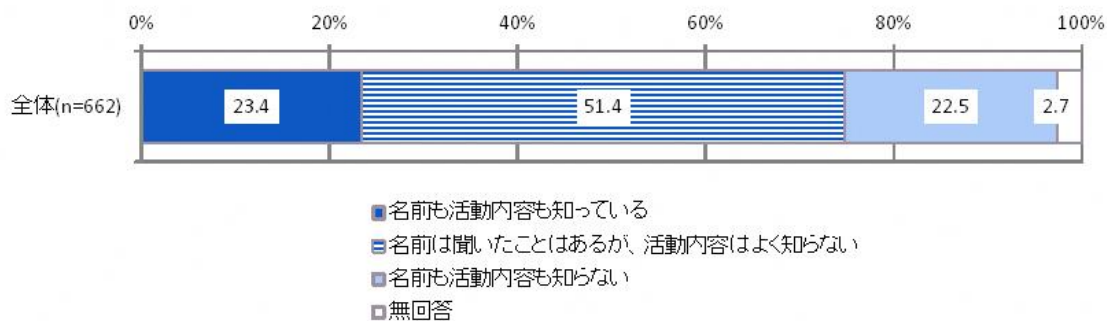
問 32 あなたがお住いの地区の担当民生委員・児童委員を知っていますか。(1つだけに○)



居住地区の担当民生委員・児童委員を知っているかについては、「知っている」が38.7%、「知らない」が57.9%となっている。

(4) 須賀川市社会福祉協議会を知っているか

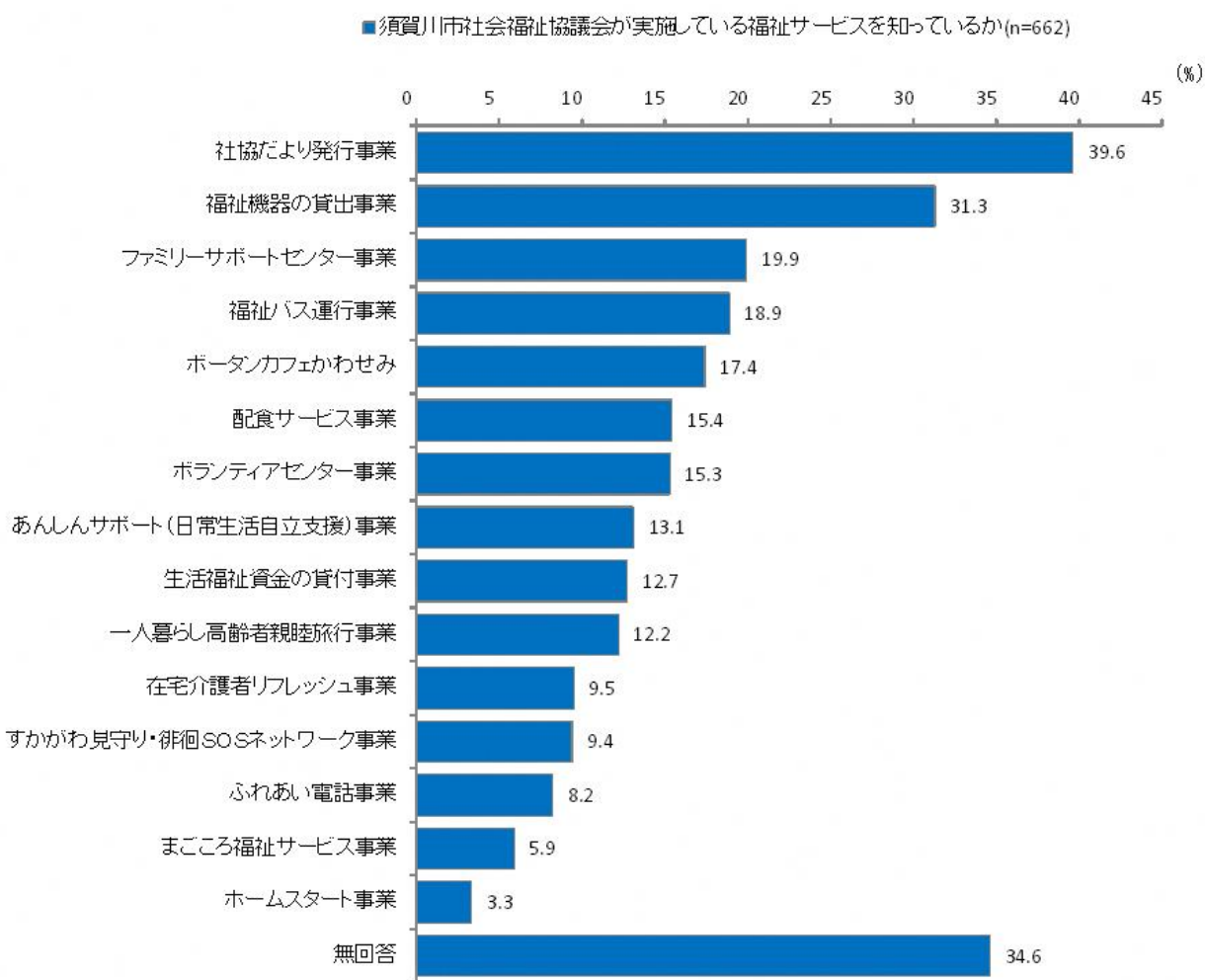
問 33 あなたは、「社会福祉法人須賀川市社会福祉協議会」を知っていますか。(1つだけに○)



須賀川社会福祉協議会を知っているかについては、「名前は聞いたことはあるが、活動内容はよく知らない」が51.4%と最も多く、次いで、「名前も活動内容も知っている」(23.4%)、「名前も活動内容も知らない」(22.5%)となっている。

(5) 須賀川市社会福祉協議会が実施している福祉サービスを知っているか

問 34 あなたは、社会福祉法人須賀川市社会福祉協議会が実施している下記の福祉サービスを知っていますか。(あてはまる番号すべてに○)

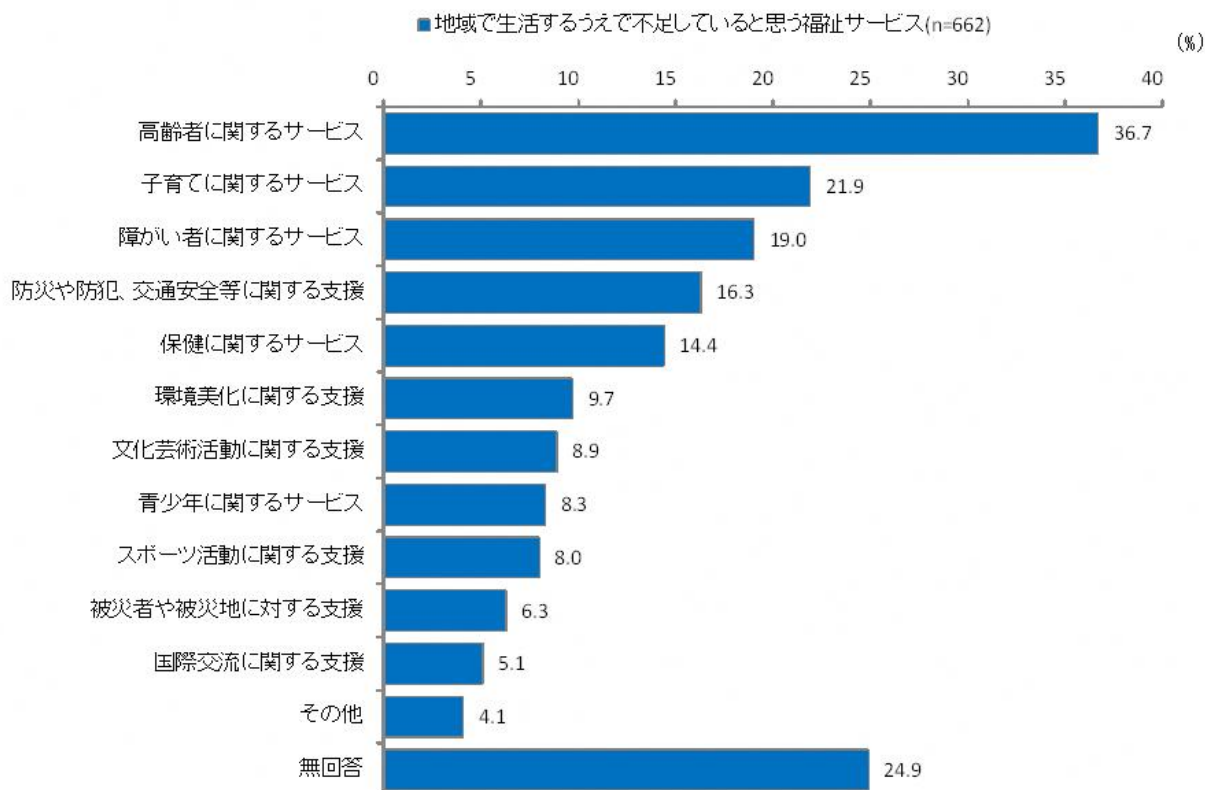


須賀川市社会福祉協議会が実施している福祉サービスを知っているかについては、「社協だより発行事業」が39.6%と最も多く、次いで、「福祉機器の貸出事業」(31.3%)、「ファミリーサポートセンター事業」(19.9%)、「福祉バス運行事業」(19.9%)となっている。

(6) 地域で生活するうえで不足していると思う福祉サービス

問 35 地域で生活するうえで不足していると思う福祉サービスは何ですか。

(あてはまる番号すべてに○)



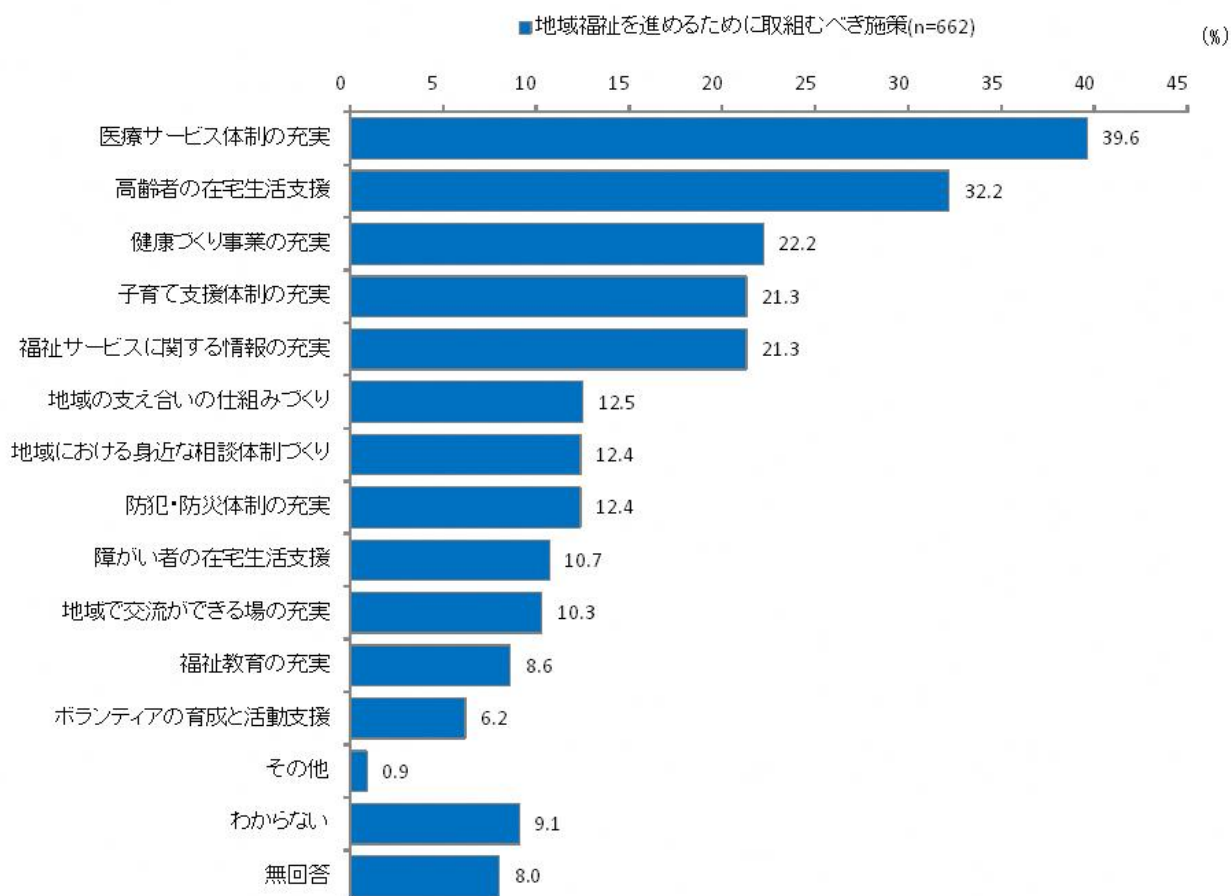
地域で生活するうえで不足していると思う福祉サービスについては、「高齢者に関するサービス」が 36.7%と最も多く、次いで、「子育てに関するサービス」(21.9%)、「障がい者に関するサービス」(19.0%)、「防災や防犯、交通安全等に関する支援」(16.3%)となっている。

問 35 その他記述一覧

内容	件数
わからない	13
不足していない	2
交通の利便性	1
人口を増やす為に出来る支援	1
1人暮らしの方の病気入院に関するサービス	1
家の近くまでくる巡回バス	1
定年退職者への仕事紹介	1
20代に対する支援	1
福祉サービスに関する情報提供	1

(7) 地域福祉を進めるために取組むべき施策

問 36 今後、地域福祉を進めるために須賀川市・須賀川市社会福祉協議会はどのような施策に取り組むべきだと思いますか。(優先度が高いと思う番号上位3つまでに○)



地域福祉を進めるために取組むべき施策については、「医療サービス体制の充実」が39.6%と最も多く、次いで、「高齢者の在宅生活支援」(32.2%)、「健康づくり事業の充実」(22.2%)、「子育て支援体制の充実」「福祉サービスに関する情報の充実」がともに21.3%となっている。

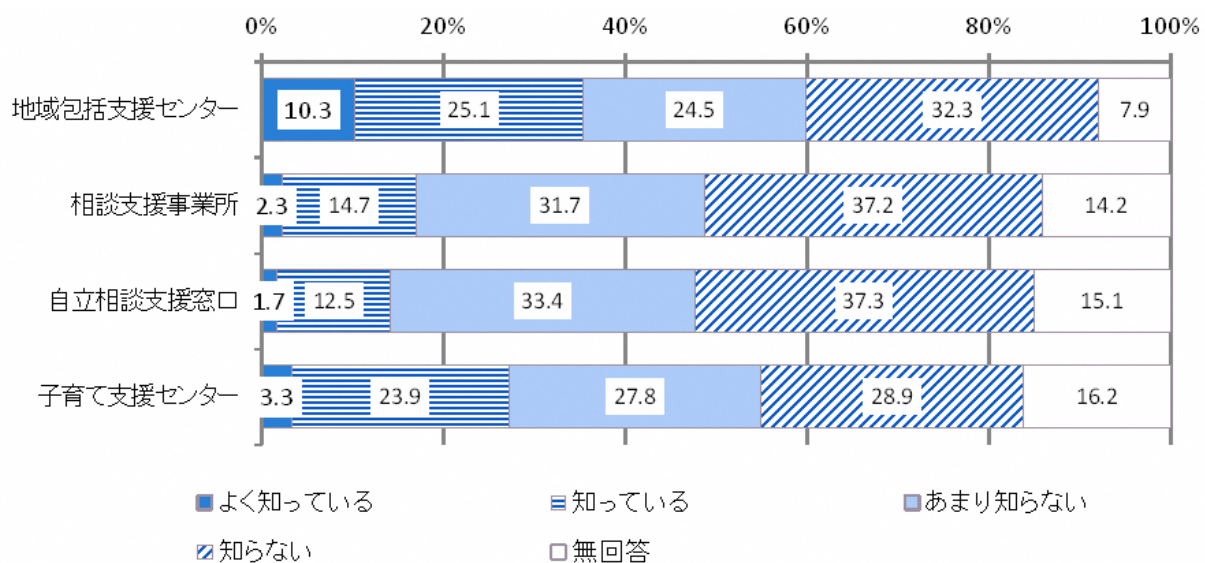
問 36 その他記述一覧

内容	件数
成年後見制度の充実	1
寝たきりにならない体づくりの推進	1
就職、婚活、妊活する人への支援	1
ボランティア保険の公費支出	1

(8) 専門の相談窓口を知っているか

問 37 須賀川市では各制度ごとに専門の相談窓口を設置していますが知っていますか。

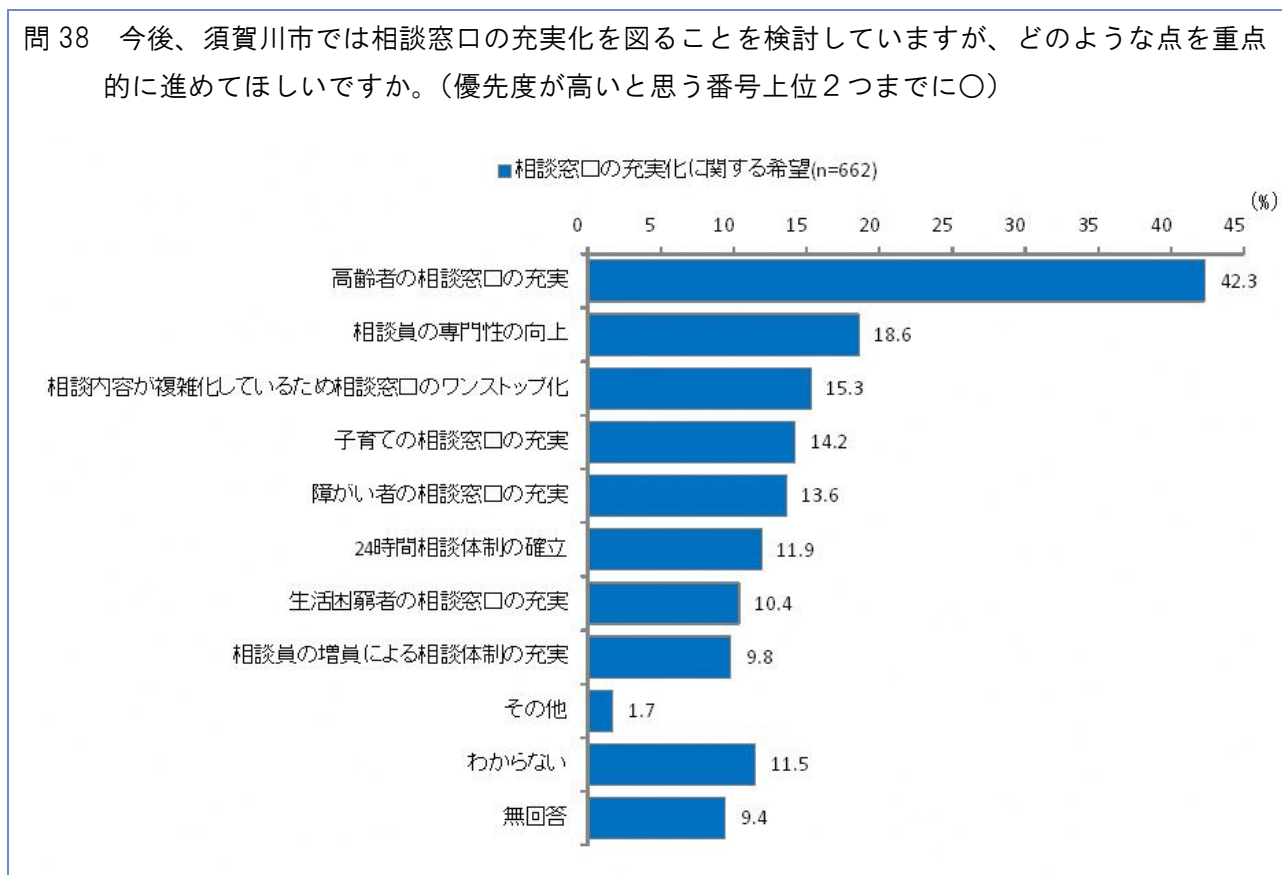
(それぞれあてはまる番号に○)



専門の相談窓口を知っているかについては、【よく知っている】と【知っている】を合わせた“知っている”を見ると、「地域包括支援センター」が35.4%と最も多くなっている。一方、【知らない】と【あまり知らない】を合わせた“知らない”を見ると、「自立相談支援窓口」が70.7%と最も多くなっている。

(9) 相談窓口の充実化に関する希望

問 38 今後、須賀川市では相談窓口の充実化を図ることを検討していますが、どのような点を重点的に進めてほしいですか。(優先度が高いと思う番号上位2つまでに○)



相談窓口の充実化に関する希望については、「高齢者の相談窓口の充実」が42.3%と最も多く、次いで、「相談員の専門性の向上」(18.6%)、「相談内容が複雑化しているため相談窓口のワンストップ化」(15.3%)、「子育ての相談窓口の充実」(14.2%)となっている。

問 38 その他記述一覧

内容	件数
土、日も相談できる窓口	2
直接訪問せずに相談できる窓口 (HPなど)	2
相談員の親身な対応	2
相談機会の増加・周知	2
就職、婚活、婚活する人の相談窓口	2
地区に合った相断	1
情報の共有	1
若人交流相談	1
職員の窓口での対応	1

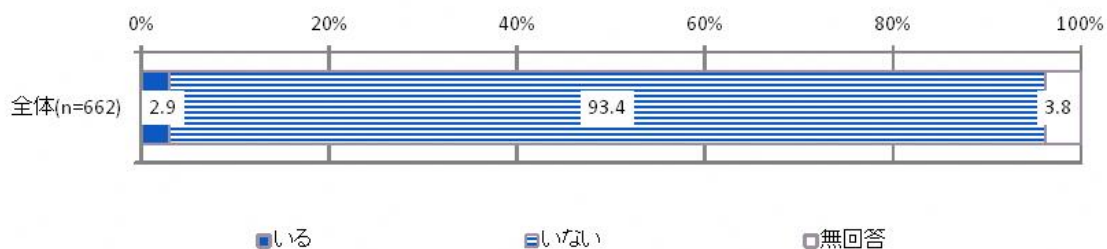


## 5 「ひきこもり」について

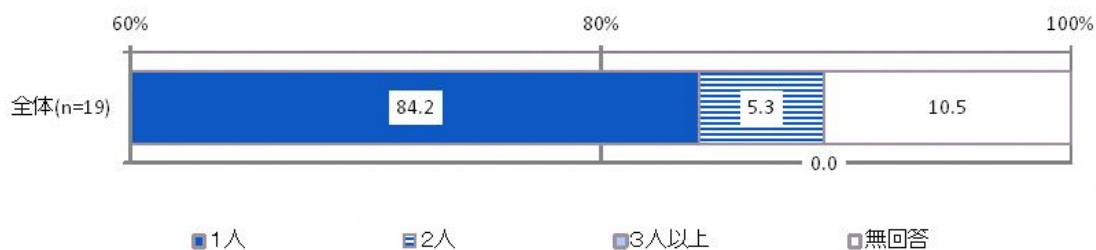
### (1) 「ひきこもり」の有無・人数

問 39 あなた自身も含めたご家族の中に、「仕事や学校に行かず、家族以外の人との交流もほとんどせずに、6 カ月以上続けて自宅にひきこもっている状態の方」はいらっしゃいますか。（ただし、妊娠中の方、病気の方は除きます。）（1 つだけに○）

#### 【「ひきこもり」の有無】



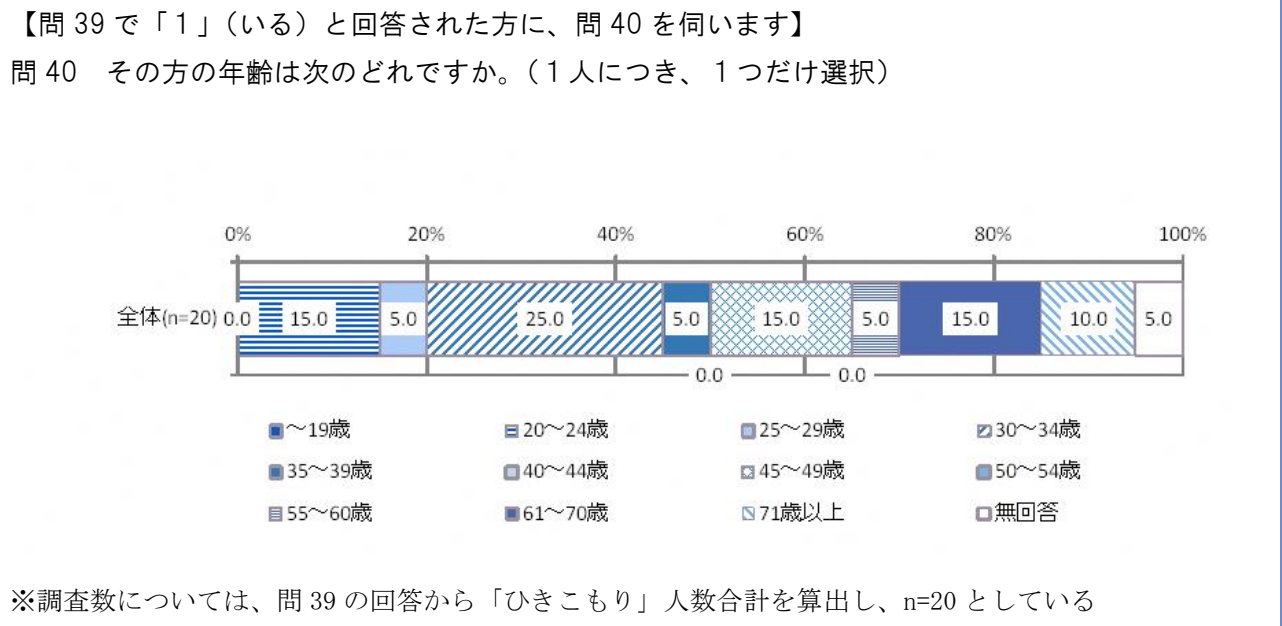
#### 【「ひきこもり」の人数】



「ひきこもり」の有無については、「いる」が2.9%、「いない」が93.4%となっている。

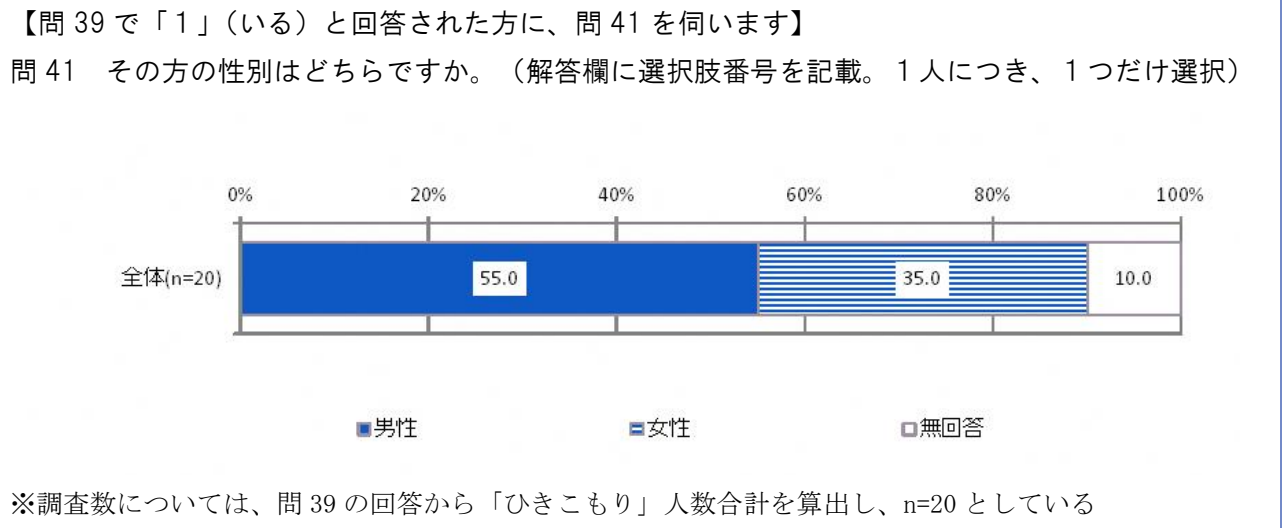
「ひきこもり」の人数については、「1人」が84.2%、「2人」が5.3%となっている。

(2) 「ひきこもり」の年齢



「ひきこもり」の年齢については、「30～34歳」が25.0%と最も多く、次いで、「20～24歳」、「45～49歳」、「61～70歳」がともに15.0%となっている。

(3) 「ひきこもり」の性別



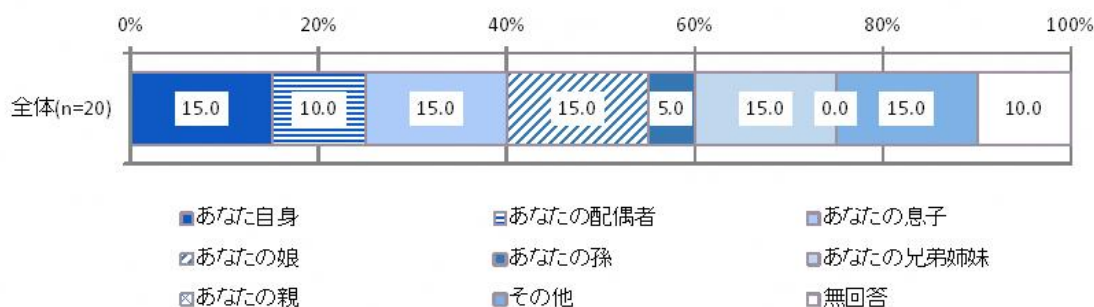
「ひきこもり」の性別については、「男性」が55.0%、「女性」が35.0%となっている。

(4) 「ひきこもり」の続柄

【問 39 で「1」(いる)と回答された方に、問 42 を伺います】

問 42 その方は、次のうちどなたですか。

(解答欄に選択肢番号を記載。1人につき、1つだけ選択)



※調査数については、問 39 の回答から「ひきこもり」人数合計を算出し、n=20 としている

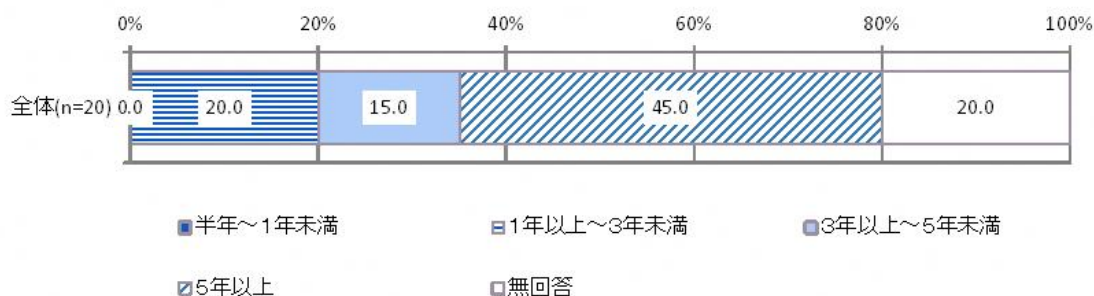
「ひきこもり」の続柄については、「あなた自身」、「あなたの息子」、「あなたの娘」、「あなたの兄弟姉妹」で 15.0%と多くなっている。

(5) 「ひきこもり」の経過年数

【問 39 で「1」(いる)と回答された方に、問 43 を伺います】

問 43 その方がひきこもりの状態になられてから、どれくらい経ちますか。

(解答欄に選択肢番号を記載。1人につき、1つだけ選択)



※調査数については、問 39 の回答から「ひきこもり」人数合計を算出し、n=20 としている

「ひきこもり」の経過年数については、「5年以上」が 45.0%と最も多く、次いで、「1年以上~3年未満」(20.0%)、「3年以上~5年未満」(15.0%) になっている。

## (6) 「ひきこもり」の原因

【問 39 で「1」（いる）と回答された方に、問 44 を伺います】  
 問 44 その方のひきこもりの原因は何ですか。

## 問 44 記述一覧

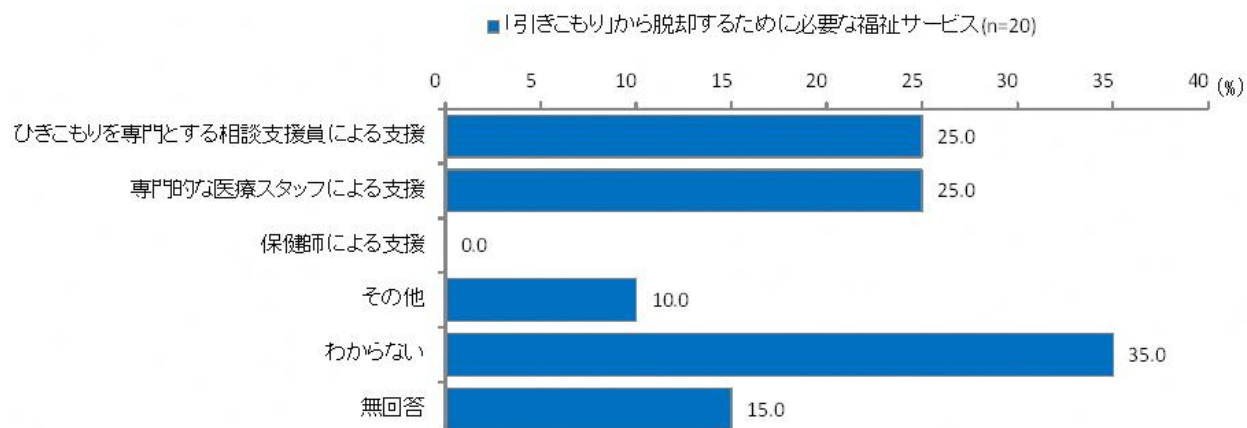
内容	件数
不登校	4
仕事に関する問題	4
コミュニケーションに関する問題	3
家族問題	1
地域の間人間関係	1
震災（退職）後	1
小学生高学年よりいじめによる不登校後、成人しても人間関係がうまくいかない	1

(7) 「ひきこもり」から脱却するために必要な福祉サービス

【問 39 で「1」(いる) と回答された方に、問 45 を伺います】

問 45 今後、ひきこもりから脱却するためにその方に必要な福祉サービスは何ですか。

(解答欄に選択肢番号を記載。1人につき、あてはまる番号すべてを選択)



※調査数については、問 39 回答から「ひきこもり」人数合計を算出し、n=20 としている

「ひきこもり」から脱却するために必要な福祉サービスについては、「ひきこもりを専門とする相談支援員による支援」、「専門的な医療スタッフによる支援」がともに 25.0%となっている。なお、「わからない」が 35.0%となっている。

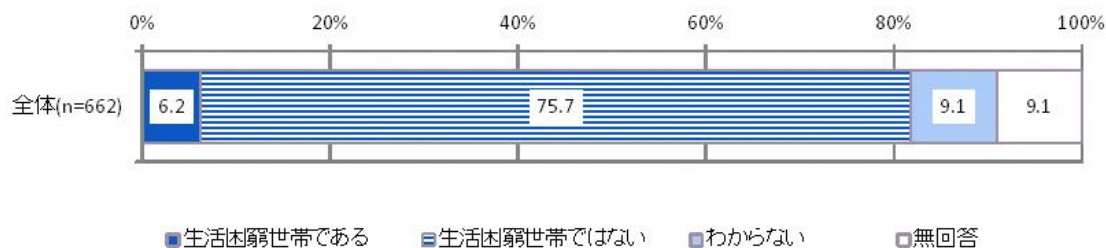
問 45 その他記述一覧

内容	件数
仕事に就くことを考えているため、手助けを希望	1

## 6 貧困について

### (1) 生活困窮世帯への該当

問 46 あなたの世帯は生活困窮世帯（毎月の収支が赤字である、市税・公共料金・家賃等の滞納がある、医療費の支払いが困難である等の状態にある世帯）ですか。（1つだけに○）

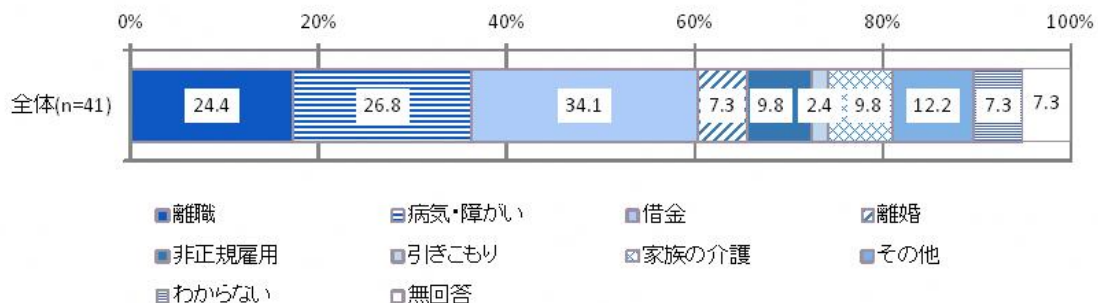


生活困窮世帯への該当については、「生活困窮世帯である」が6.2%、「生活困窮世帯ではない」が75.7%、「わからない」が9.1%となっている。

(2) 生活困窮に至った原因

【問 46 で「1」と答えた方に伺います】

問 47 あなたが生活困窮に至った原因は何ですか。(あてはまる番号すべてに○)



生活困窮に至った原因については、「借金」が 34.1%と最も多く、次いで、「病気・障がい」(26.8%)、「退職」(24.4%) となっている。

問 47 その他記述一覧

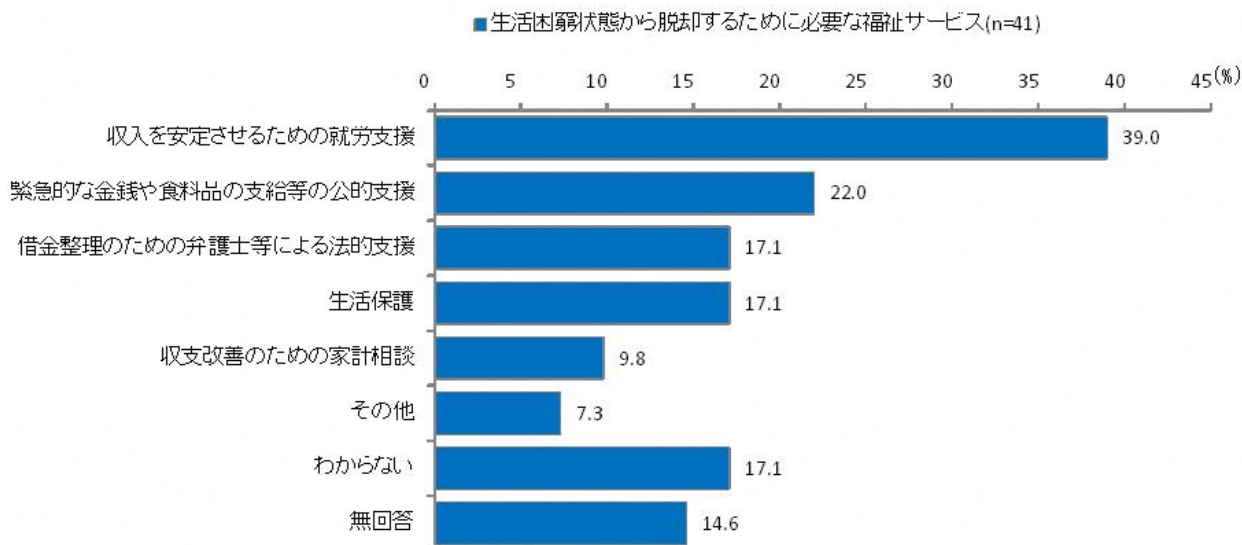
内容	件数
年金のみの生活	1
配偶者による豪遊	1
民間の給料が安い	1
夫がケガのため休職中	1

(3) 生活困窮状態から脱却するために必要な福祉サービス

【問 46 で「1」と答えた方に伺います】

問 48 あなたが、今後生活困窮状態から脱却するために必要な福祉サービスは何ですか。

(あてはまる番号すべてに○)



生活困窮状態から脱却するために必要な福祉サービスについては、「収入を安定させるための就労支援」が 39.0%と最も多く、次いで、「緊急的な金銭や食料品の支給等の公的支援」(22.0%)、「借金整理のための弁護士等による法的支援」(17.1%)、「生活保護」(17.1%)となっている。

問 48 その他記述一覧

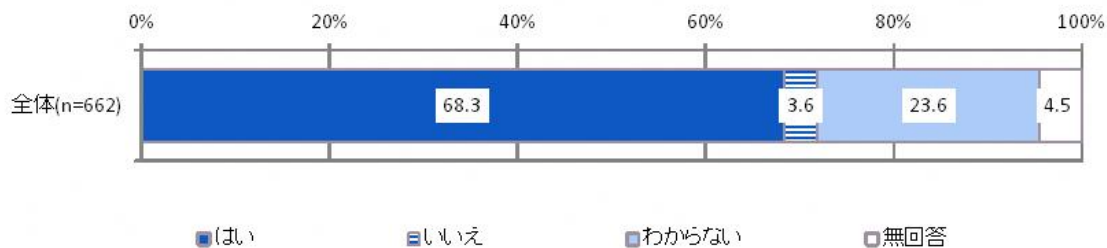
内容	件数
学資保険に入らなくて済むように、大学までの学費を無料化	1



## 7 災害時の対応について

### (1) 自主防災組織の必要性について

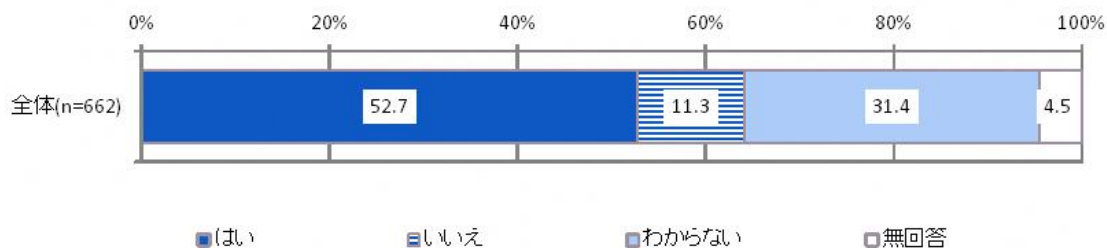
問 49 地域の自主防災組織は必要ですか。(1つだけに○)



自主防災組織の必要性については、「はい」が68.3%、「いいえ」が3.6%、「わからない」が23.6%となっている。

### (2) 防災訓練実施時の参加意向

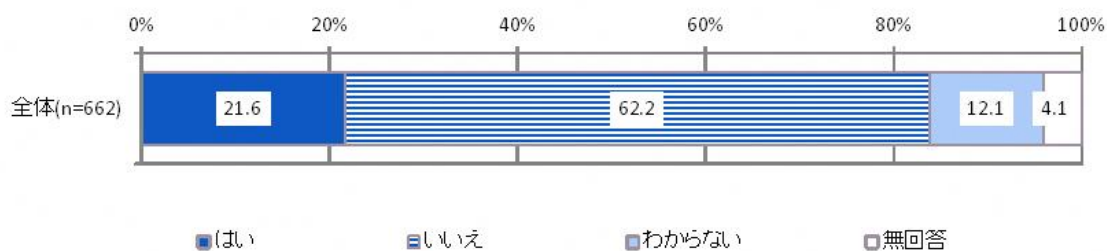
問 50 地域での防災訓練を実施した場合、参加しますか。(1つだけに○)



防災訓練実施時の参加意向については、「はい」が52.7%、「いいえ」が11.3%、「わからない」が31.4%となっている。

(3) 緊急時、避難所への誘導などの必要性

問 51 災害などの緊急時に、避難所への誘導など手助けが必要ですか。(1つだけに○)

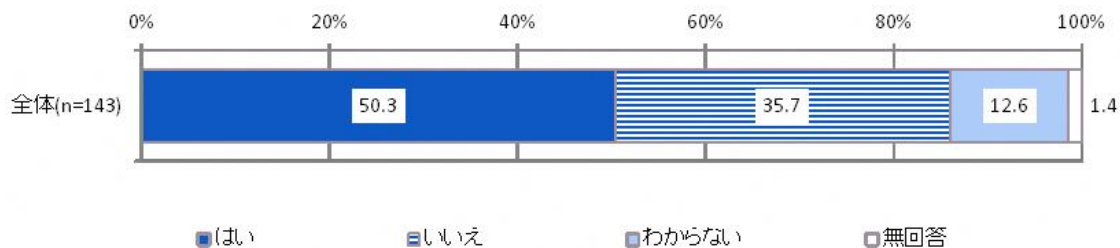


緊急時、避難所への誘導などの必要性については、「はい」が21.6%、「いいえ」が62.2%、「わからない」が12.1%となっている。

(4) 緊急時、手助けを頼める方の有無

【問 51 で「1」(はい) と答えた方に伺います】

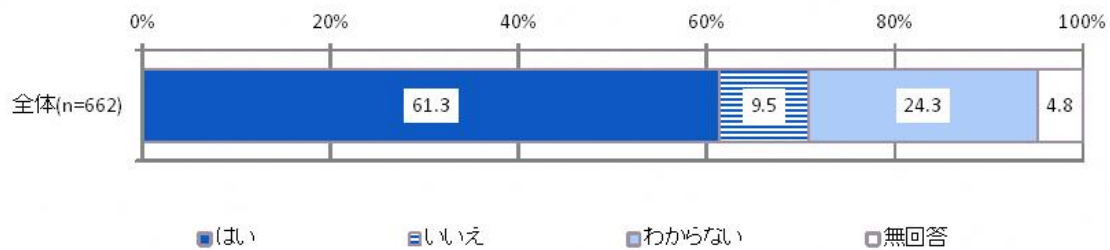
問 52 手助けを頼める方はいますか。(1つだけに○)



緊急時、手助けを頼める方の有無については、「はい」が50.3%、「いいえ」が35.7%、「わからない」が12.6%となっている。

## (5) 緊急時、周囲への手助けの可否

問 53 災害などの緊急時に自分の安全が確保できたら、周りに高齢者世帯や障がいのある人などがいた場合、その方の避難等の手助けができますか。(1つだけに○)



緊急時、周囲への手助けの可否については、「はい」が61.3%、「いいえ」が9.5%、「わからない」が24.3%となっている。

## 8 その他

地域福祉について感じていること、疑問に思うことなどあればご自由にお書きください。

## 自由意見 回答一覧

内容	性別	年齢
坂道がなくなるだけで、車イスなどでの移動もしやすくなりますし、人に頼らず、自立しやすい環境になるのではないのでしょうか。	男性	40代
市役所、保健センター、各種銀行が有料駐車場化していることが理解できない。	女性	60代
放送が反響して聞きにくい。	男性	40代
福祉のことを考えたことはありません。	男性	30代
車の運転が出来ないので、近所の集まりには出られるのですが、少し離れた所では、バスもないので出席が出来ません。年金生活なので、タクシーは高く使用できません。自分が移動できないのに、ボランティアなどは参加する事が出来ません。	女性	60代
一緒に楽しめる行事の体制が整っていない。バリアフリーなどの環境が整っていない。そのためには少しずつ整備をしていってほしいなと思っています。福祉が整えば行事などの多くのイベントに沢山の方々の人達が見に来てくれる。	女性	20代
色々なサービスがあるみたいだが、「そんなサービスがあるのか」と思う事が多々ある。防災無線の放送ですが、ほぼ近く（300m以内）ですが、何を言っているか聞こえない。	女性	50代
防災無線が家の中にいると聞き取りにくいです。	女性	60代
地域内で日常生活の隣近所で行う当番や清掃など、後期高齢者世帯は体調その他によって実施が難しい場合が多く、困ります。高齢者の世帯は除外してもらえないのでしょうか。隣近所の連帯性がありますが参加不可能な場合も多々あり、迷惑そうな態度をされると、本当に困ります。今の社会の中で、「高齢者に思いやりを」などと言っているのは、表向きだけだと思います。安心して暮らす事は、大変難しい事です。御一考下さい。	女性	80代
高齢者の運動グループへの補助（年金生活者ばかりで活動ができていない）。	男性	60代
今は孤立しているものが多い。隣同士でもあいさつもしない。昔とは変わってきた生活です。老人になると自分達の事は自分で生活するしかないと思う。部落でも老人だけの家は部落の様子もわからない事があります。今の教育方針がなっていないと思います。	男性	80代
私自身が足の悪い障がい者のため思うことはたくさんありますが、行政の方は「制度はこれだけありますから手続に来て下さい」というスタンスです。行くのが大変なのです。だったら我慢してしまおうと思うのです。制度に該当する方の所に出向くという形は取れないのでしょうか。	男性	60代

内容	性別	年齢
医療の充実。「郡山に行けばある」ではなく須賀川で。赤ちゃん応援券、すごく嬉しかったです。用があって役所に行く度、丁寧に対応してもらえる。ウルトラマンを子供が大好きになりました。須賀川住みやすいです、ありがとうございます。	女性	20代
運転免許を返納してからの交通、買い物などの援助が、まだ充実されていない。集会所など身近にある施設が手軽に使用できるようになってほしい。郵便局、特にゆうちょが近くになく不便。	男性	70代
高齢者に対するものは比較的しっかりしていると思う。子育て支援については該当者でないのわからない。もう少し情報を発信してもよいと思う。若者の就業企業が他市町村より圧倒的に少ないように思える。人口減少が心配である。	男性	60代
税金が高い。	男性	30代
同じ須賀川市民で有りながら、街中に住んでいる住民と地域的に離れている所では、細かい部分で不平等を感じている。仁井田地域にも、百円で乗れるバスを走らせてほしいです。人の世話にならずに、自分で行動をしようとする、お金がかかりすぎます。交通の利便性を切にお願い致します。	女性	70代
地域の繋がりがなくなってきた中、改めて考えさせられた。それぞれの家庭が干渉されたくない、したくない思いもあるだろうが、緊急の時に困る事も頼れない地域では寂しいと思う。日中、仕事でいない家も多い地域なので防犯面も気になる。すぐに出来る事は、誰にでもあいさつをすること。近所の方も顔を合わせたときは、世間話が出来ると良いと思う。福祉サービスや社協の活動も、申し訳ないがあまりわからない。もっと発信して頂ければと思う。市役所の食堂が利用できる事をテレビのニュースで知ったので行ってみたいと思った。	女性	40代
この度、主人が脳梗塞になり、あらためて家庭内で主人がしていた仕事が私には出来ないことが沢山あったと思い知らされました。例えば、秋口に家の中に入れ、春口に外に出す植物。家の周りの垣根の刈込み、電球の取替等々、その度にどうクリアして行くか頭を痛めてしまいます。シルバー人材へお願いすれば良いとは思いますが、利用した事が無いものですから面倒が先に立って、頼んだ事がないです。もっと簡単にTEL一本で来て下さるような業者、何事も引受けて下さるようなボランティア的な人達がいてくれたらとつくづく思います。でも今回は、高額療養費の件、介護保険、福祉用具等取り付けて頂き安心して家で暮らしております。大変夫婦共々感謝しております。	女性	70代
高齢者が入れる施設をもっと多く作ってほしい。	男性	60代

内容	性別	年齢
介護保険の審査基準の改定を求める。家族がいる場合、介護度が下がると保険対象にならない。重度又は単身者が優位になる。これは公平でない。給付を受けようとする全ての者にそれなりのサービスが可能になるようにすべきである。独居家族が増加する、このことは自分自身が責任を持つべきであるが、脳疾患など緊急時の場合、救急車要請が不可能となる。働き方改革又は高齢者増加、特に75才以上の中で、意欲のある者を就労出来る事業所体制の充実が求められる。高齢者を活用し、働くことにより健康を維持できる。国に対し所得税の納入もできる。給付を受けるばかりが定年後の生きがいではない。	男性	70代
今後、高齢化を迎える身として、色々考える事が出来た良い機会でした。少なからず、我身のこととしても地域福祉に関わりを持ち続けていきたいと思えます。	男性	60代
大型道路に小型バスを運行してほしい（市役所→須賀川病院→おしゃれ劇場→カワチ薬品）。	男性	70代
近年高齢者が増え、草刈りなど重労働に対して参加はしているが危険が伴う。市役所、公共関連に伺いますと、窓口にメガネは置いてあるが、耳の補聴器が置いてない。今は耳の中に入れない簡易な補聴器もあるので高齢者対策として置いて欲しい。高額な器具で無くても良いので是非検討して欲しい。	男性	60代
地域福祉についてほとんど知らないことが多い。知る機会がないと感じるので、どこで情報が得られるのかなど、情報発信があれば良いと思う。	女性	30代
高齢化が進んでいる今、老人ばかりフューチャーされていますが、今後の未来を担う子供達への支援が手薄になっていると思う。貧富の差により学力の差が生まれているのも事実です。塾に通わなくてはいけないという世論の中で、塾へ通えない子への支援など。無料学習支援など必要だと思う。もともとやる気のない子は集まらないと思うし、本当に必要としている人だけ集まると思う。	男性	30代
高齢化社会の進展とともに病気のことにも心配であり、核家族化の中、隣近所の付き合い方が大切になってくると思う。	男性	60代
一般論ですが、確実に核家族化が進行し、一人暮らし世帯が増加すると思われまます。そんな人々こそが安心して暮らして行ける社会の充実こそ、結果として全体の安心につながると思うのです。顕著な事柄は専門に任せますが、そんなものにかからないすき間の事柄こそが、全体の充実になるので、地域の人々など、ボランティアのうまい活用こそこれからの地域には必要となるはずで。	男性	60代
障がい者のいろいろな手続きや事業、イベント等広報活動の充実（年齢に応じた福祉サービスを紹介して欲しい）。	男性	50代
私も含めて、いずれ一人暮らしが増えると思います。入院の際の不便さも感じています。身内とも縁遠く、友人にお世話になるのも心苦しく、相談しやすいサービス制度を望みます。緊急の場合、とても不安です。	女性	60代
地域コミュニティづくりが重要である。地域住民が顔の見える組織づくり。	男性	70代
今の所、夫婦とも健康維持のため、ウォーキング、食事と気を付けていますが、80才、90才ともなると、わからない。地域福祉があるかもわからない。	女性	70代

内容	性別	年齢
地域で若い人と高齢者の話の場を設け、災害の時の避難場所の順序や順番などの話し合い、取り決めなどして広告等を配布すること。	男性	50代
若者の遊べる施設をもっと多くしてほしい。子どもを産むことができる病院を増やしてほしい。バスなどの公共交通機関を充実させてほしい。駅の設定を整えてほしい。自然いっぱい良い町だと思います。	女性	10代
私の住んでいる地域の道路は私道で、市の恒久的管理がしてもらえない。	男性	70代
高齢者の運転免許証、返納後の買い物。	男性	40代
近くに公園はあるが、遊具が少なく、いつも車で15分かけて公園まで行き子ども達を遊ばせている。遊具が充実していればその公園で遊べるし子ども達も賑わうと思う。	女性	20代
様々な福祉サービスがあることを知りました。自分が必要とする立場にないからかも知れませんが、恥ずかしながらまったく存在を知りませんでした。通常どのようにしてこの存在を知るのでしょうか？イメージが付きません。しっかり広報や市のHPなどを確認し、情報を得て、サービスを活用させて頂きたいと思います。	男性	30代
防犯のため中高生の通学路をもっと明るくした方が良いと思う。多くの中高生が通る須二中から清陵高校の間が大変暗い。歩行者の通行量の多くない宮の杜が異常に明るい。市内のバスが走り便利がよさそうだが市内北部の宮の杜・柏城方面には行き届いていない。高齢の方は駅や病院まで利用したいのでは。	女性	50代
週4日～5日間働いていますのであまり高齢者としての実感がありませんし、生活も困窮しているわけでもないので福祉活動について関心が無かったと思います。福祉サービス等の内容についても必要に迫られる事がなかったので詳しく知りようともしていませんでした。しかしいつまでも現在の状態が続くわけでもありませんので今後はもっと先の事を真剣に考える必要があると思っています。自分が車の運転が出来なくなった時、1人暮らしになった時に出来るだけ孫や子に迷惑かけずに老後の生活を過ごせる様にするには、自分達高齢者が健康で生活出来ていることが大切な事なので自分や周囲の人達の健康維持に務めて行きたいと思っています。	男性	70代
女性が働きながら、子育てしやすい環境を整えてほしい。学童支援の充実。	女性	20代
各地域で高齢者が多くなっています。どの地域でも色んな活動を行っています。人を集める事が大変なようです。福祉の方では、各地域の活動状況の成功例など情報をどんどん流してほしいと思います。	男性	70代
高齢者の一人暮らしが進む中、市は高齢者の自宅を訪問し意見を聞き、暮らしやすい環境を作してほしいと思います。	女性	60代
居住地区は農家がほとんどでありましたが、近年は若者が居住しなくなり高齢者世帯が増えつつあります。特に農家での高齢者世帯は、農業が続けられずに、地区外の方々に田畑を貸しておりますので、地区内での防火用池などの保管管理が難しくなりました。役員などは受けませんので、今後難しくなります。	女性	70代



内容	性別	年齢
生活困窮者、或いは母子（父子）家庭について調査して対応を検討していくことが必要。今後、高齢者が増えて行き、個別調査など財政的な措置が必要になってくる予想がある。	男性	70代
福祉は幼い頃の環境も大切と感じます。核家族が多い家庭環境だからこそ、幼小期の頃の高齢者とのふれあいも重要かと思います。弱い人を手助けできる自然な人との関わりができる須賀川市になれば良いと思います。	女性	30代
ケアマネの質を高めて欲しい。	女性	30代
税金は個人で引かれるのに、国・県・市からいただけるのは、世帯収入。一緒に住んでいても家計は別です。個人の収入に対しての助成にしていきたいです。	女性	40代
今は車を運転していますが、運転が出来なくなったら買い物も出来なくなり、医者に行くのも困難になってくる。いざ自分の立場になってくると本当に心配になってきます。昔は移動販売の車が来ていたのですが今は来ません。町に行かなくても買物が出来て、安心して一日を過ごすことが出来るそんな日を望んでいます。	女性	60代
私ども地区においても1人ずつ考えが違うため、良かれと思って手伝ってやったことが相手に取って迷惑になるなど、大変なことが多くなっています。アパートが多くなり、なかなか心と心が馴染めず、特に夜中の騒音には困っています。我々地区などは解決できないことが多いです。手伝いをするにも、躊躇してしまいます。	男性	70代
民間の賃貸アパートに住んで10年以上になりますが、福祉サービスが、これ程多く実施されている事、初めて知りました。市で発行されている公報紙も入ってこないで、市政の事も全然分からず、病院に行った時に初めて色々な事が分かる状態です。	女性	70代
アンケートについて、無作為に送付しているが、生活困窮者が回答することはまずないと思う。本当に地域福祉の充実を図るのであれば、当事者から意見聴取すべきである。あくまで一個人としての意見であるが、高齢者福祉より、次代を担う子育て支援に力を入れて欲しいと切望する。	男性	40代
介護者がいる世帯でもパソコンを使えない人が多いので、初めて介護申請などをする人の手順書など冊子のような手引き書などがあると良い。	男性	50代
どの様な福祉サービスがあるのかわからないため、市役所のどの窓口に行くのかわからない。一覧表があると良いと思う。福祉申請の手続を簡素化してもらえると良い。	男性	50代
生活保護を受けている人、もっと自立出来る人がいるように思います。調べて支援するようにお願いします。	女性	60代
高齢者の介護（特に認知症）について、もっと制度を充実させて欲しい。	男性	40代
市、県はどのように災害を想定しているのか。地震・水害・火災、漠然として分からない。	男性	80代
民生委員の仕事内容がわからない。社会福祉協議会があるのかもわからない。	女性	60代



内容	性別	年齢
地域福祉活動があれば人と人とのコミュニケーションが出来て、防災や防犯、一人暮らしのお年寄の安全などたくさんさんのメリットがあるのは分かりますが、夫婦共働きや若い人たちの参加する機会は、休みの日であれば家族サービスなどで余裕がないと思います。そして、昔ながらの地域の輪に入る勇気もないと思います。恐らく、そう思っている方はたくさんいると思うので、お祭りのように気軽に参加出来て、家族みんなで、地域の方々みんなで、楽しみながらの活動があれば少しずつたくさんさんの活動に様々な方達も参加できると思う。	女性	40代
外傷のため夜間救急センターで応急措置をしてもらおうと訪れたところ、外科的治療になるとのことで、他の医療機関に行くようにとのことで窓口で断られた。他の医療機関では当局医が外科医ではなかったが、傷の消毒等の治療をしてくれ、翌日再受診するよう指導された。夜間救急センターでも傷の消毒等の応急措置は出来るのではないかと、救急センターの在り方に疑問を持った。	男性	70代
障がいを持っている方へのケアをもっと充実してほしい。障がいをもっている人に対しての必要な対応をしてほしい。障がいを持っている人が一人で悩まないで、相談にのってくれる場があり、手助けのようなものがあればよいと思う。形だけの手助けでなく、心のケアができるような所があれば良いと思う。一つの枠にはめるようなやり方は適切でないので、幅広く対応出来るような機関があれば良いと思う。	女性	60代
ごみ捨て場について、利用者による適切な分別がされていない。分別要領を分かりやすく表示する等の対策が必要である。ごみ捨て場が不衛生（生ごみをカラスが荒らす等）なため、衛生環境の向上が必要である。	女性	30代
稲田地区は最近、稲田学園が出来て色々と変わってきた。だからこそ、交通の便なども変わってほしい。駅に行くにも遠いし、バス停も少ない。稲田地区だけではないが、須賀川市中心市街地以外は本当に不便だし、車がないと何もできないと思う。	女性	30代
母子家庭になった場合、母親の両親と同居の時でも少しの額の母子手当てでも助かるので、出していただきたいです。	男性	60代
同居していない若い世代の夫婦は、アパート等で子育てしながら仕事していることが多い。須賀川市の広報や回覧板による情報誌を読んでいないようで（隣組に入っていない）、意外と市のことがわかっていないと思う。子育て情報など、知って欲しい人たちが知らずにいるのは、もったいないと思う。隣組に入らない人たちが多く、当番になると大変だからかもしれないので、何か工夫が必要だと感じている。	女性	50代
福祉施設が足りません。	女性	60代

内容	性別	年齢
須賀川市は半年程住んでいます、まず子育て中のお母さんがとても優しく穏やかだと感じました。小さい子どもさんにとっても優しく声掛けをしている姿が多いです。心に余裕がある子育てをされているように思いました。私は以前2県でファミリーサポートのボランティアをしていたことがあります。利用料金についてですが、延長すると割増になる所が多かったです。預かる側としては、早朝や深夜、又長時間になると多少無理が伴います。せめて同料金だと励みになります。これからも地域、住民のため頑張ってください。須賀川市、とても素敵な街です。	女性	40代
子育てもほぼ終わり、親もまだ自立しており、現在、福祉について考える事があまりないためアンケートに協力できたか不安です。ただ、今後何らかの形で福祉に関わることになると思うので、これを機会に地域福祉について考えていこうと感じました。	女性	40代
地域福祉計画を策定することで、ひきこもり、生活困窮者等の現状把握が少しでも出来て、地域や行政が速やかに相談窓口をすることができるツールを作成出来れば幸いです。	男性	40代
会社を退職され、閉じこもりがちのシニアの方々の活動できる場やコミュニティをもっと積極的に作り、参加を促すことにより要介護者を減らせると思う。	男性	60代
公園は、よく子どもたちが遊ぶので不衛生な環境にしないで下さい。	女性	30代
2歳の子の一時保育をお願いした際、こども園では9～17時、週3回が上限と明記してありましたが、実際行ってみると週2回半日だけが限度と言われました。子育て支援事業として行っていると思われる一時保育だと考えていましたが、書いてある事と行われている事が一致していなければ何の支援にもなりません。スタッフ不足等で出来ないのは仕方ありませんし、誰も悪くありませんが、只今一時保育は行っていない事を市のHPでお知らせ頂くか、園に電話した時に教えて欲しかったと思いました。	女性	30代
福祉サービスも前よりも大分良くなっているとは思いますが、介護しながら仕事をして収入を得なければならない立場の人には、社会は優しくないと思う所があります。家族の悩み相談に答えてくれる、聞いてくれるだけでなくちゃんと解決してくれる、窓口はありますか？	女性	50代
地域内でどのようなサービスや行事があるかわからないため、情報をもっと周知してほしいと思う。災害等が起きた場合の対策や災害が起きそうな場所の把握、情報提供をしてほしい（土砂災害等）。	女性	20代
仕事を持っているので実情がわからない。高齢者1人世帯はますます増えていくと思われるので、支え合う仕組み、行政（社会福祉協議会）の役割を知る機会が少ない。高齢化社会の進展に向けた、地域社会のあり方を住民自ら考える必要がある。	男性	60代
高齢化になって、1人暮らしの方、80～90代の方でも、何でも出来ると言ってサービスを受けない方がいると聞きます。このような方への見守りも必要だと思います。	女性	60代

内容	性別	年齢
社会福祉と聞くと、サポートやサービスのイメージがあり、定義からは逸れてしまうかも知れませんが、それに加えて、子供を増やす、又は人口を増やすような取組みがあつていいように思う。人がいなければ福祉は、成り立たないと思う。地域に子供を帰すような取組みは出来ないものか。スポーツ少年団や部活動も大切ではあると思いますが、地域に誰が住んでいるか知らないのでは、防災も含め、意義が低下してしまう。子供の地域教育を軸に、老人の方をサポートして行けるような地域が理想であると考えます。	男性	40代
60才の定年後、仕事を無理のない範囲で行いたいが、場が少ないと思う。65才の年金まで、体を使って役に立ちたい、生活費の足しに働きたい、意欲も元気もあるという人は男女ともにいると思います。子育ての年代は子どもの一時預かりに困っている方もいるように思います。年代ごとに助けあい、共に良い効果ができる社会づくりをしていただけると良いと感じます。	女性	50代
地域の人たちとの繋がりが希薄になっていて近所の人の状況を正確に把握していない。	女性	50代
税金が高すぎる。	男性	60代
近所では若い人がみんな外に出てしまつて年寄りばかり増えています。もっと若い人が地元に戻れるように仕事があれば良いと思います。公立病院は日中でも救急車の対応が難しく、これから病気をしても不安。	女性	50代
市民としての活動やサービスの面について、知らないことが多すぎるということ、今回のアンケートでより感じました。マンションに住んでいると、地域（町内）の会報なども学校に通学する子供がいないことで、情報が入ってきません。公報誌などがコンビニエンスなどにも置かれてあると良いと思います。市役所が新しくなつて、同じ場所ではあるのに、高齢者には利用の仕方もわかりにくいです。	女性	60代
近所や周りを見ても、手助けが必要ではないかと思う場面に、時々会うことがありますが、個人情報やその人たちのプライドなど、一歩が踏み込めないことが多々あります。そんな時こそ、行政なのでしょう。もう少し気軽に相談できる所であつてほしいと思います。役所は、近いようで遠いのかもかもしれません。	女性	60代
福祉が必要になつてから周知していくのではなく、教育の充実を希望します。	女性	40代
除雪車が除雪した雪を歩道に積み上げることは止めて欲しい。	男性	80代
近くに一人暮らしの方が増えていますので、介護士や職員が不足しているのではないのでしょうか。今後は介護士、職員の方を増やして下さい。	女性	60代
認知症の人の財産管理や、負債を相続せざるを得ない人が直面している問題について「誰に相談すれば良いのか？」がわからず力になつてあげられなかった。市の育児相談のHPに「住民票がある方」だけではなく「里帰り出産で里帰り先が市内の方」と入れて欲しい。	女性	50代

内容	性別	年齢
高齢で一人暮らし、健康に不安を感じるようになった時が怖い。近所付き合いの大切さもわかるが、近隣トラブルなど耳にする事が多いので、積極的にもなれない。定年退職後、時間も出来たので、地域活動に興味もあるが、どうすればいいのかわからないので、活動内容など広報してほしい。	女性	60代
バスもなく、車の免許も返納した高齢者は買物難民化している。自分達が高齢者になったとき、お金がなくて介護保険料を払っていても、それを利用できない時代が来るのではと不安だ。	女性	50代
あと2年で一人暮らしになります。持ち家でもあり、空部屋もあるので、たとえば児童養護施設退所後で行き先の決まらない子ども達や、少年院などを退所後で行き先の決まらない子ども達の一時保護のようなこと自立支援ホームのようなことはできないかと漠然と考えています。一人暮らしになって、時間的余裕ができたなら、ホームスタートには参加したいと思っています。	女性	50代
生活困窮世帯ではありませんが、持家で子どもたちが皆結婚をしたので一人住まいです。主人からの土地の相続で、田・畑・山林と前住んでいた所の国定資産税も払っています。今はまだ働いているので、なんとか払っていられるのですが、この先払えなくなったら、今住んでいる家にいられるのかと、とても不安です。年寄りが多いこの頃、私の様に不安を抱えている人が多いと思います。市では、どの様に対処してくれるのでしょうか。	女性	60代
年金生活者でアパート生活です。今は元気ですが、10年後が不安です。安く入れる高齢者向きの市営住宅を作っていただけませんか。	女性	60代
福祉と聞くとどうしても福祉施設に働いている方、役所関係と決まった人に限られてしまうので、まめに市民にも「ぜひお手伝いしていただけないか」と伝え、「福祉施設に通うまでの段階で他人の手を借りて、一人又は自分だけで抱えこまない」そんな市の仕組みを浸透させる、繰り返しやっていくことが大事だと私は思いました。	女性	30代
社会福祉協議会について、任期制を設ける事や、他の協議会等々との重複を避け、活動の在り方について一考する事を期待したい。	男性	60代
公園の中の花植えは、業者ではなく、家に増えた花を持ち寄り、植えたり草をむしったりするのがいいと思う。公園をもっと利用してほしい。	女性	70代
周知が圧倒的に足りない。利用について、そもそも知らないから選択肢に出てこないことが多いと思う。インターネットにもっと詳しく分かりやすく載せてほしい。ほとんどの人は電話や市役所の窓口を利用したくない。自分の都合で好きな時に見られるインターネットのホームページが良い。	女性	20代
平成30年4月分より、難病患者福祉手当も減らされ平成31年4月からは、もっと減らされると親から聞きました。聴力障害で、補聴器の補助金はありがたいのですが、重度なので補聴器も1種しかなく値段も高いです。時代にあった見直しをしてほしいと思います。	女性	20代
子どもだけでも、インフルエンザの予防接種を無料にしてほしい。遊具が家の周りにないため、子どもが危険な遊びをする。福祉にお金を回してほしい。	女性	20代

内容	性別	年齢
生活保護受給者の入院・退院支援に対する役所の対応が遅いと感じた。	男性	20代
最近テレビで高齢者が救急車を必要とした時に、既往症や、飲んでいる薬を書いた物や置いた場所を表示しておくシステムが紹介された。高齢のため、町内会に入っていない世帯には情報がなく、テレビで知った次第です。これはほんの1例で、知らない事ばかりではないかと思う。隣組に入っていないなくても情報を共有できる方法を考えてほしい（広報、協議会だよりも無配布である）。	女性	70代
全般的に須賀川の福祉は充実していると考えられますが、老々介護者が増加している反面、元気な高齢者が増加していることも伺われます。若い世代の考え方や、意識の改革が必要なのではと考えられます。青少年時代にそういった体験を多く持つことが大事のように思われてなりません。	女性	60代
長い目で見れば、子育て支援の充実化こそ地域活性化の道だと思う。増えすぎた高齢者のケアも大事だが、子育てしやすい環境（深夜帯までの延長保育など）を整えなければ、共働き夫婦は成立しにくく、結果妻（母）が退職を迫られる。共働きであることは税収が増え、メリットの方が少ないことから、幼児教育に融通の利く須賀川市であってほしい。	男性	30代
概要だけでなく、各制度やサービス等についてホームページで詳細が確認できるようになってほしい	男性	30代
新市役所のランニングコストを削減し、福祉予算、又、図書館などの文化予算を倍増してほしいと思います。	女性	60代
現在は子供のいる子育て家庭ですが、子供がまもなく自立する年齢になると、近所のほとんどが夫婦世帯になる可能性が高くなります。現在、子育て支援は以前よりかなり改善され、充分になりつつあるのでは。先を見すえた対応が必要だと思います。これからは子供より老人が多くなる時代、そのパワーを最大に生かせる地域づくりが望まれます。活かせる財産は活かしていくのが地域活性になることでしょう。	女性	40代